



神奈川芸術祭

# 第15回神奈川県美術展





神奈川芸術祭

## 第15回神奈川県美術展

■会期 昭和55年1月13日～2月17日

入選作品展《1期》日本画 洋画 版画 彫刻 立体造形  
55年1月13(日)～1月24(木)

入選作品展《2期》工芸 書 写真  
55年1月26(土)～2月6(木)

招待・入賞作品展 日本画 洋画 版画 彫刻 立体造形 工芸 書 写真  
55年2月8(金)～2月17(日)

■会場 県立県民ホールギャラリー

■主催 神奈川県美術展委員会 神奈川県



## あいさつ

第15回神奈川県美術展を関係者の皆様の深い御理解と多大な御助力を得まして、ここに開催できますことを心から感謝いたします。

県内美術作家の育成と文化の振興を願って発足いたしました本美術展は、回を重ねるごとに内容を充実させ、神奈川県の美術水準を内外に誇る美術展に成長いたしました。

今回もまた、一年の歳月をこの美術展にかけた大作、力作が県民ホールギャラリーいっぱいに集まり、審査にあたられた先生方にも大変な御苦労をいただき感謝に堪えません。

この図録には、各部門の入賞作品の図版を集録いたしました。応募された方々の励みとなり、また、関係者の皆様の記念になれば幸いです。

本美術展は今回もまた、神奈川芸術祭に参加いたしております。「神奈川に芸術の新しい波を」は神奈川芸術祭の目標でありますが、本美術展に寄せられる県民の皆さんのがんばりの創造意欲の波は年々高まってきており、このことは本美術展15回の成果であると自負し、またこの波をより一層大きな波に変えていくことが今後の目標であると考えます。

皆様の御鞭撻、御協力を心からお願い申し上げます。

昭和55年1月13日

神奈川県美術展委員会委員長代行  
副委員長 李家正基





## 受賞作品

日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形部門



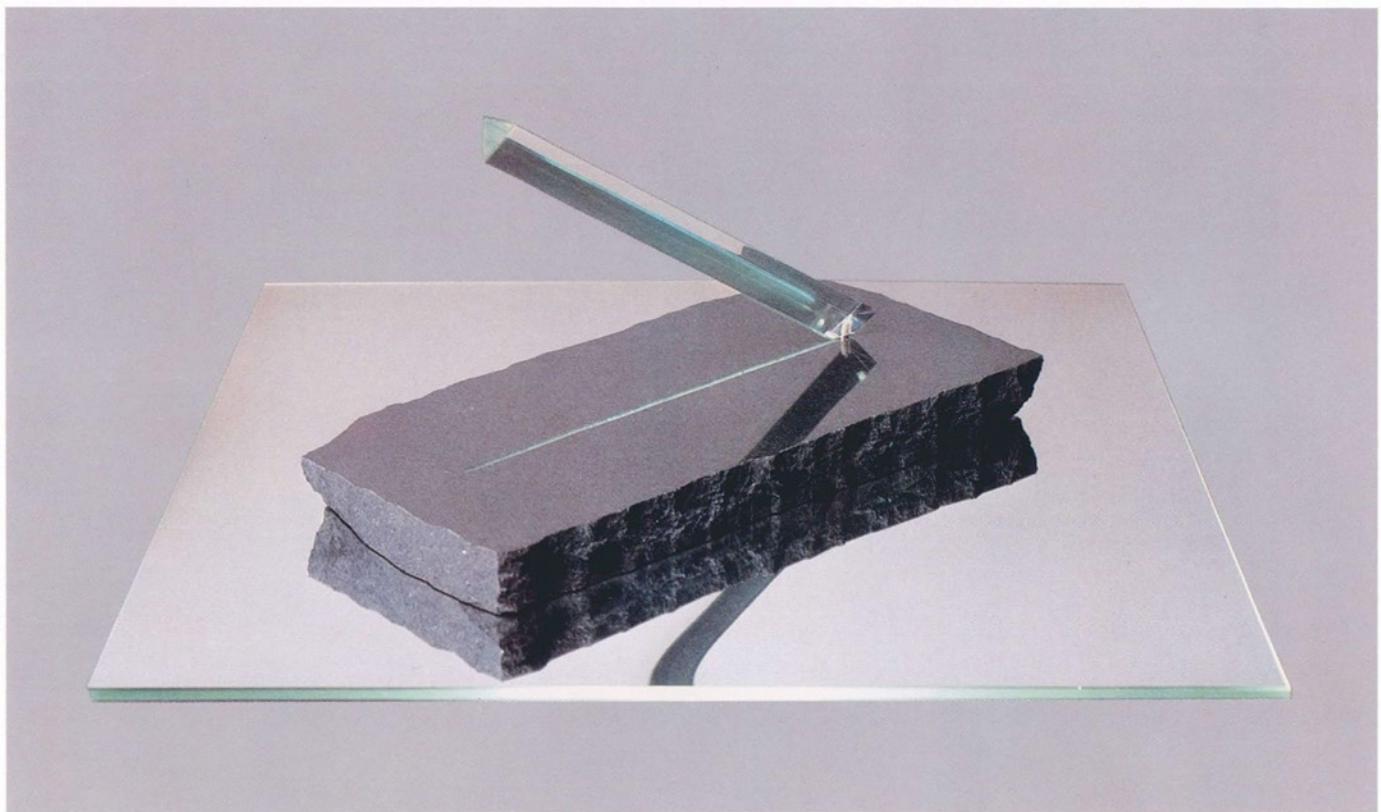
大賞 前本利彦 暗い部屋Ⅰ(日本画)



暗い部屋 II(日本画)



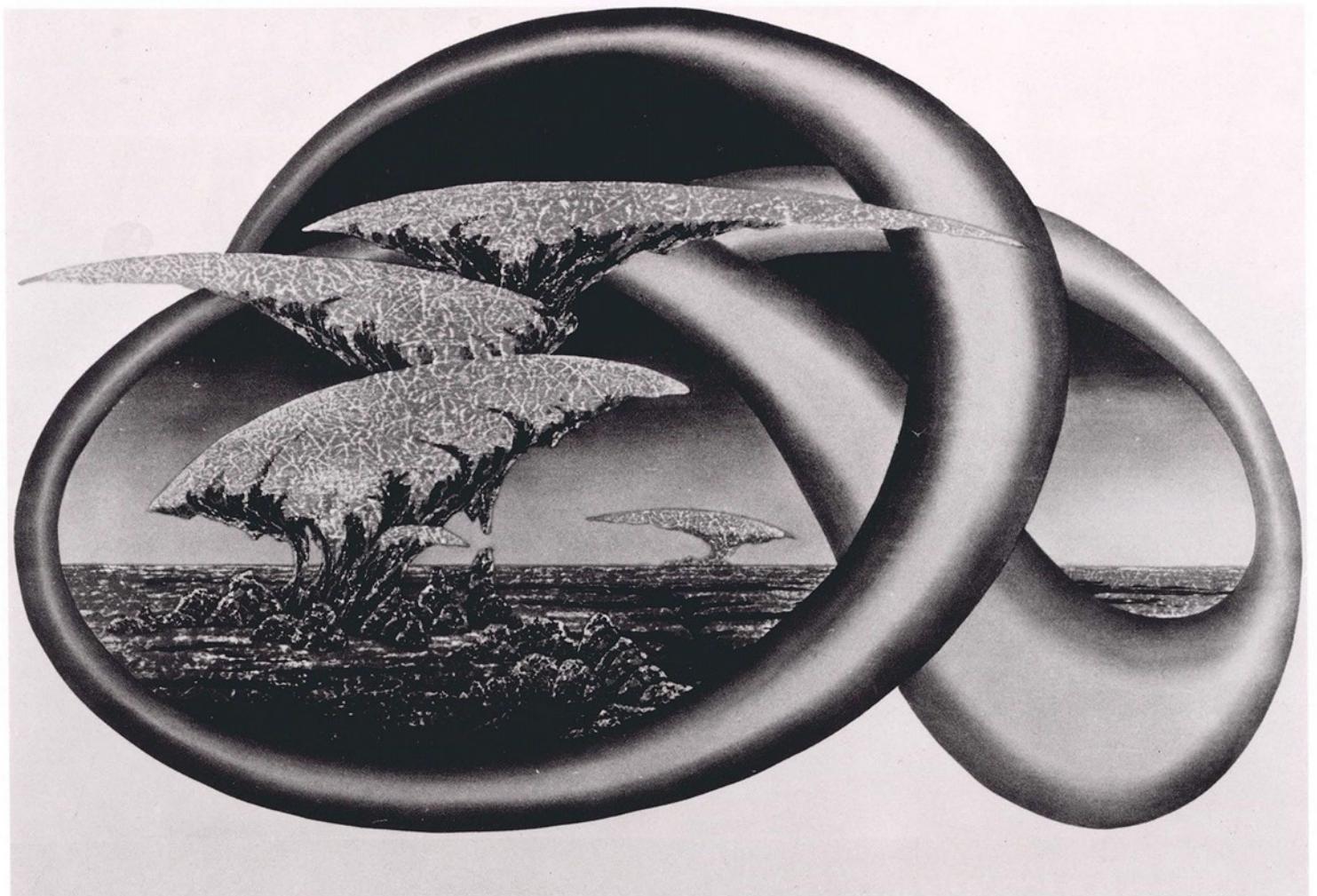
準大賞 星 兼雄 階段のある(洋画)



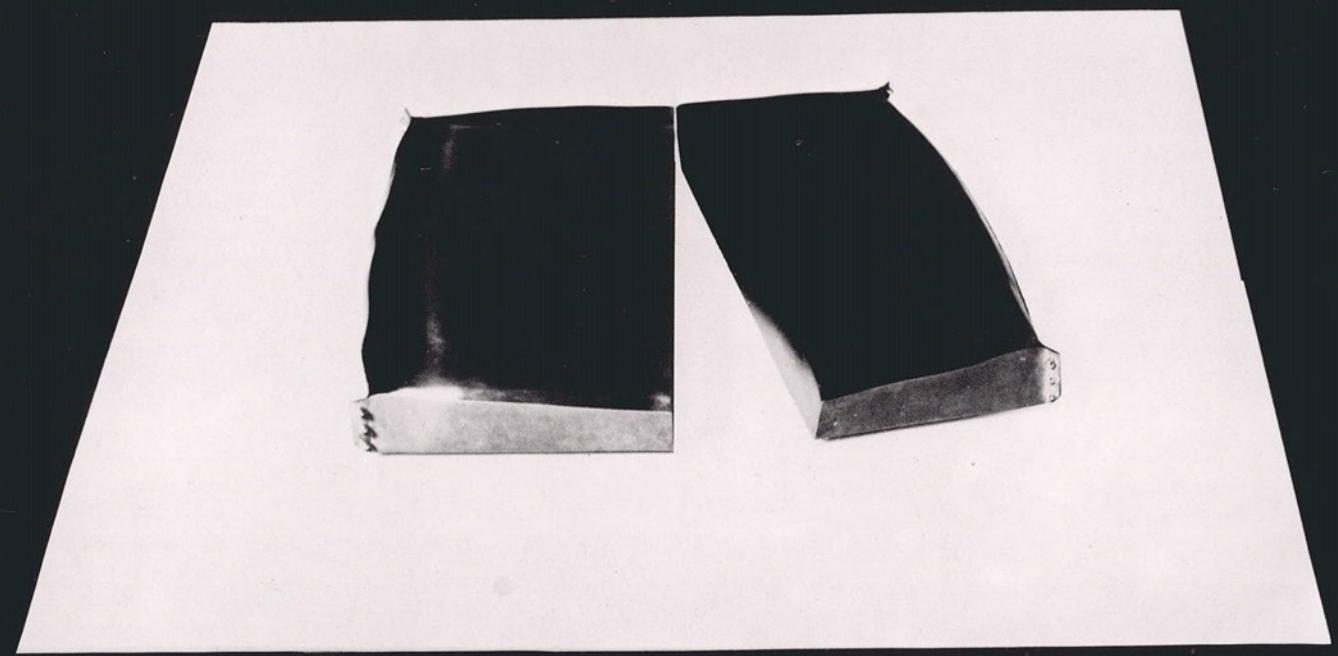
準大賞 鈴木 明 光(透過・吸収・反射・屈折・偏光)(立体造形)



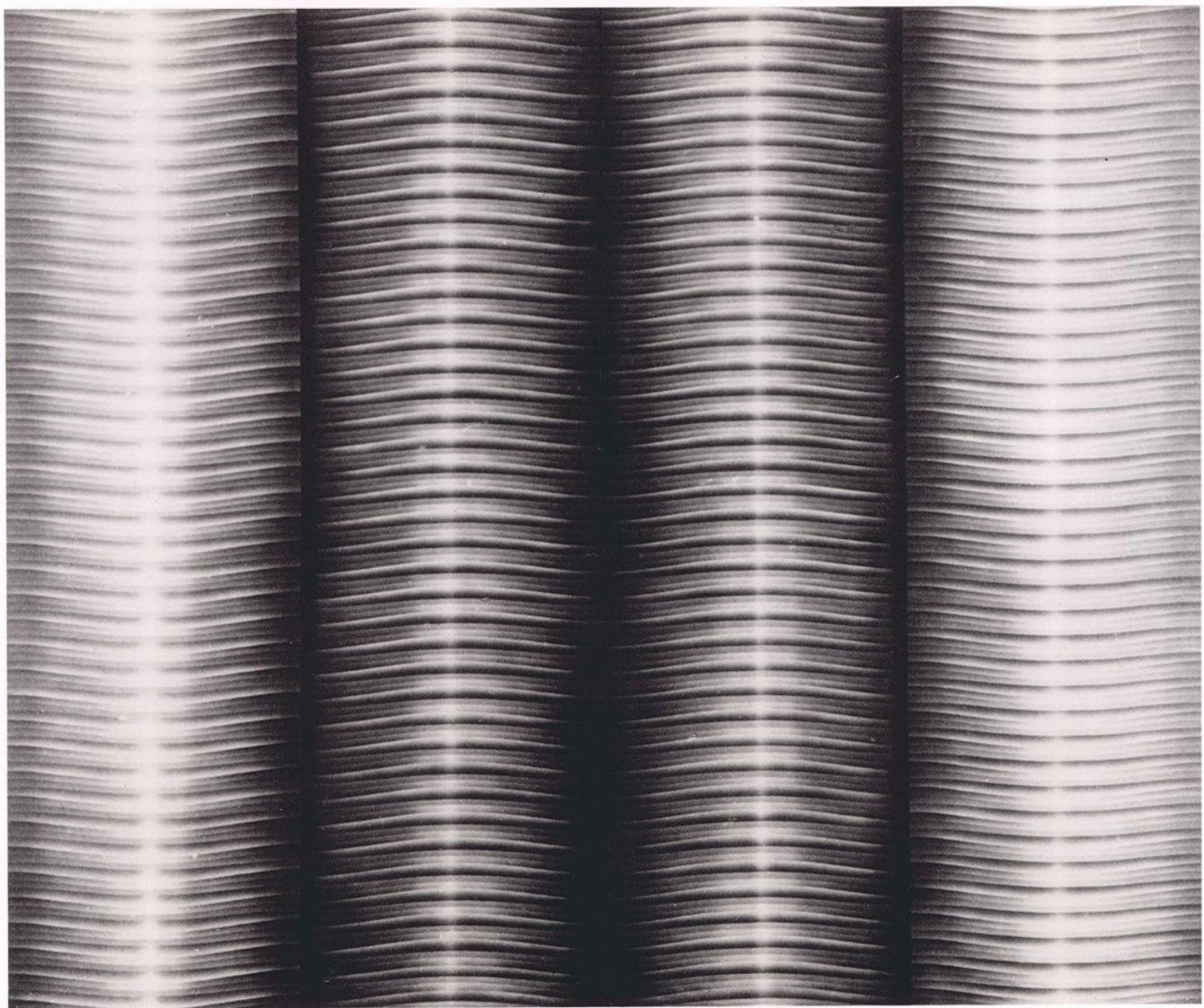
美術奨学会賞 西川正美 ときの景(洋画)



美術奨学会賞 加藤 豊紀 大気1(版画)



美術獎学会賞 安丸信行 箱・流動体・切る(立体造形)



近代美術館賞

加藤安佐子 影No.3(洋画)

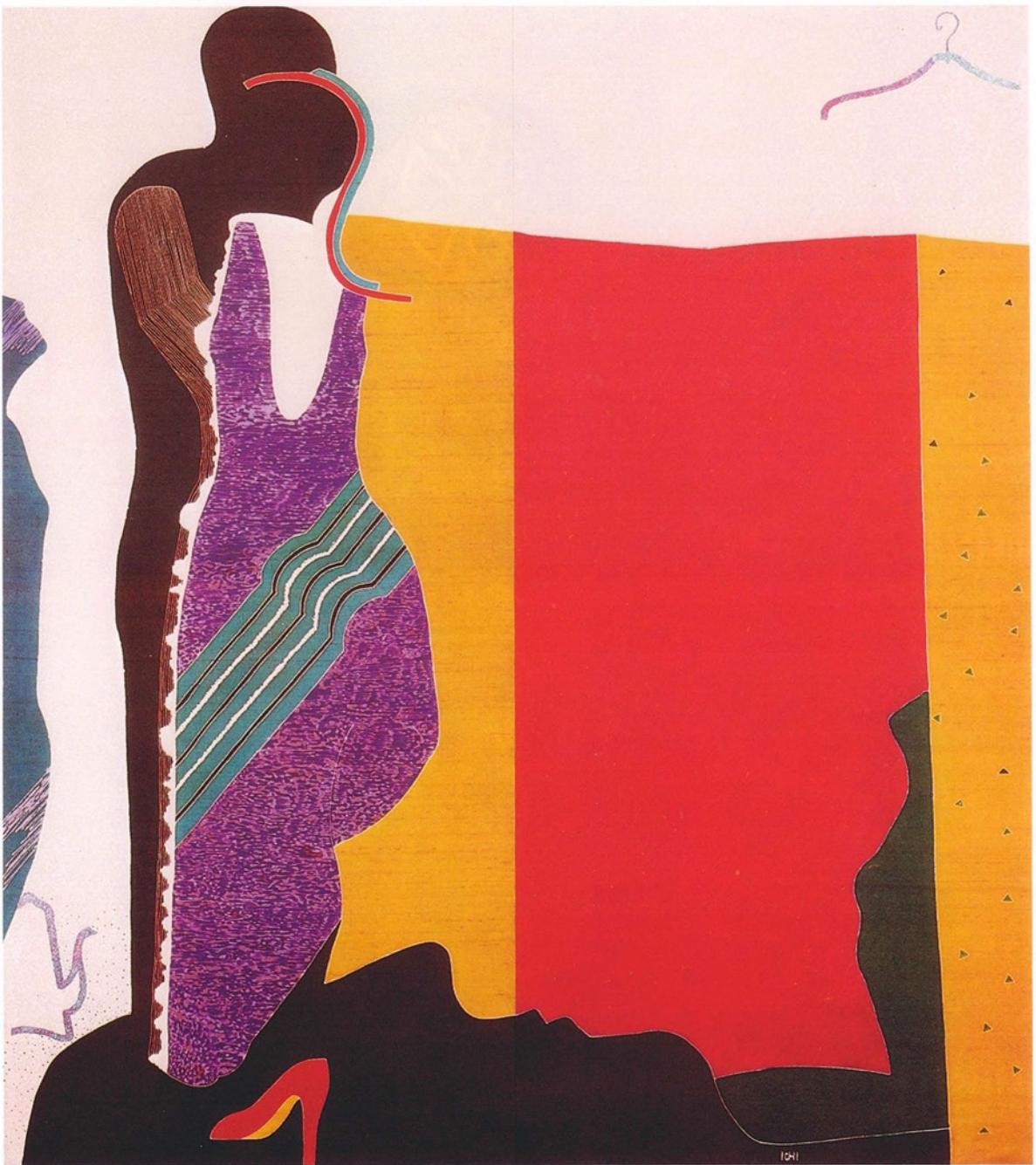


県議会議長賞 森田 伸 エチュード I(彫刻)

## 受賞作品

工芸・書・写真部門

大賞 川口流坡 菅原道真詩(書)



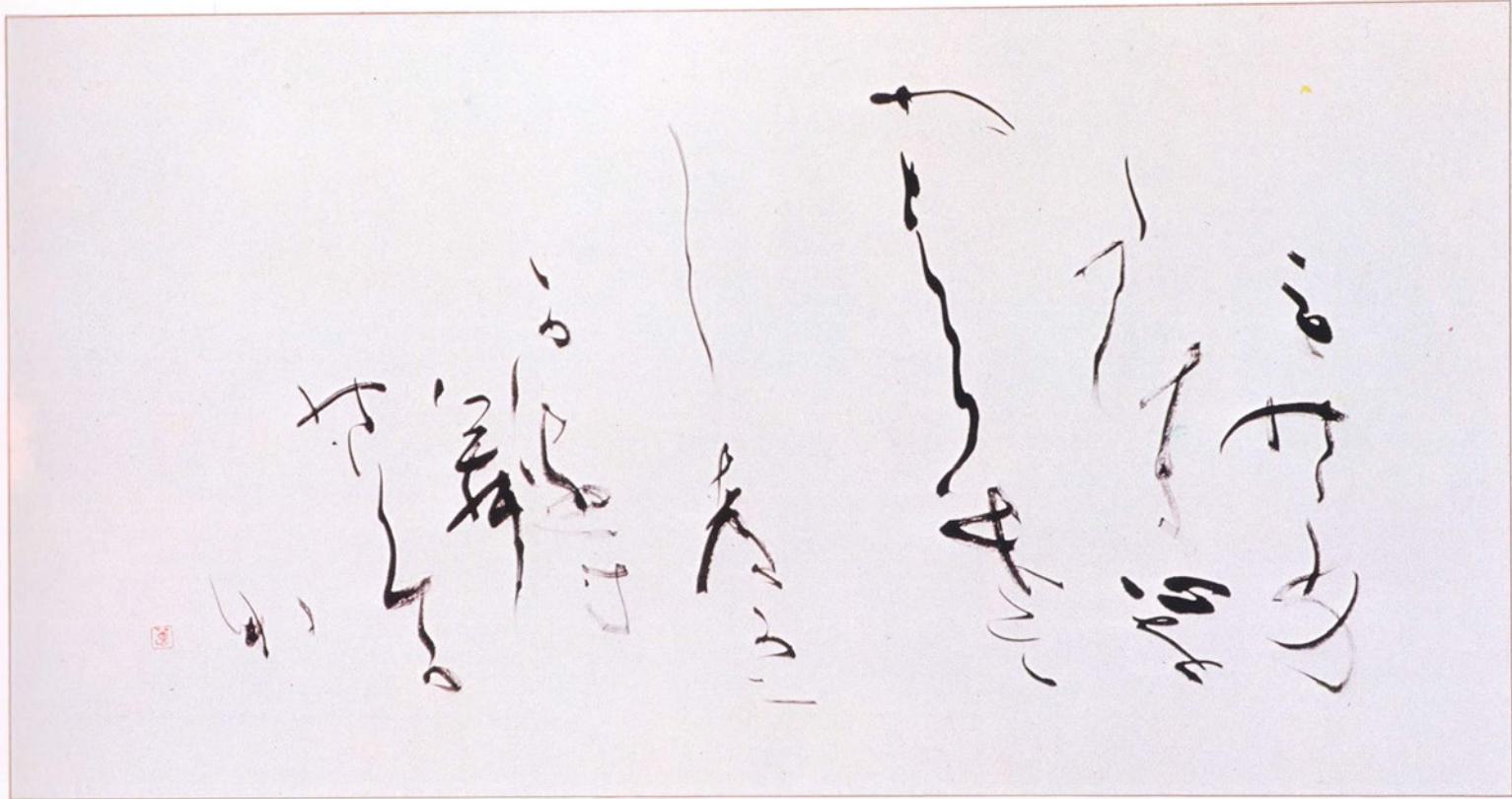
準大賞 市村富美夫 二人(工芸)



準大賞 岩澤 健吾 body(工芸)

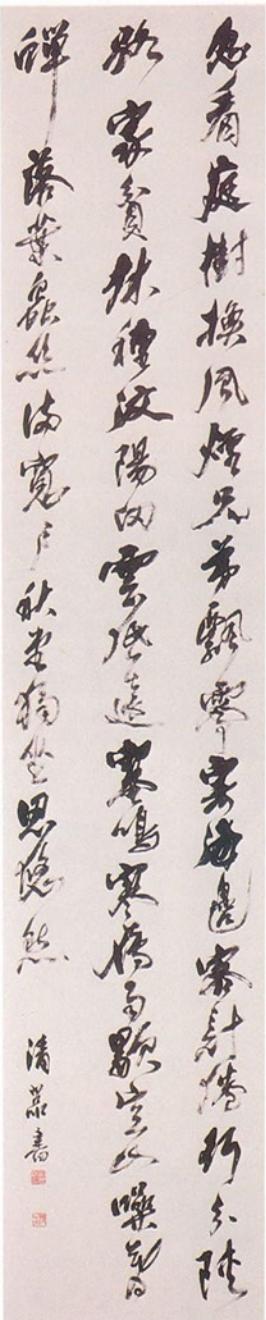


準大賞 門田ヒロ子 花心(工芸)

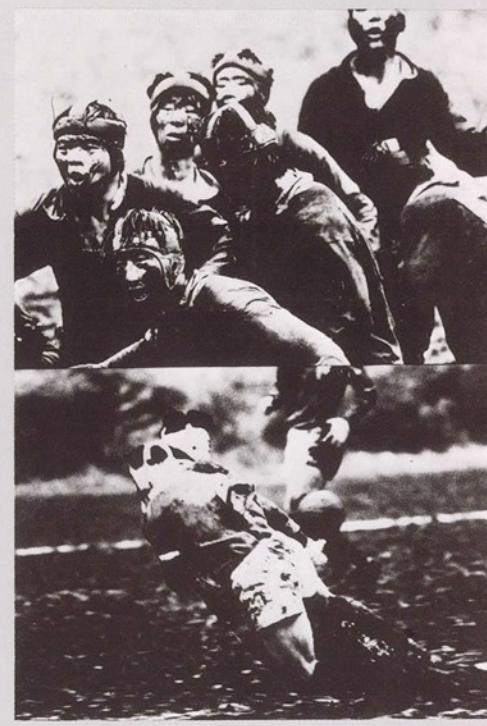
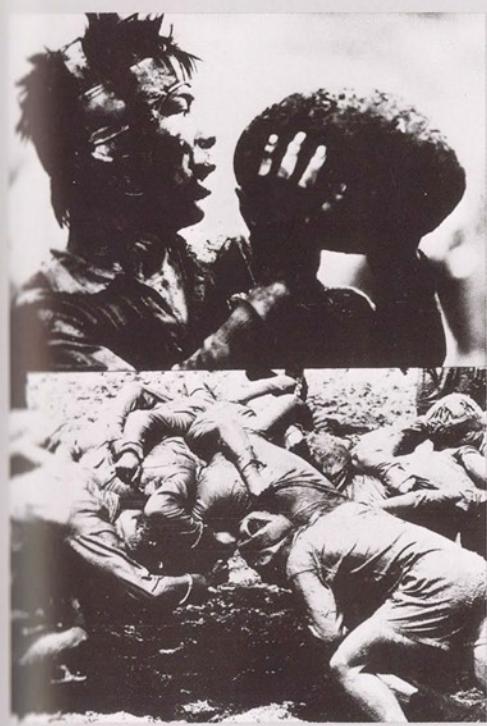


**準大賞** 岩沢 恵堂 冷泉為恭の歌(書)

**準大賞** 山田愁風 金冬心(書)



準大賞 藤野清嵒 劉滄詩(書)



準大賞 倉又光顯 泥だらけの青春(写真)



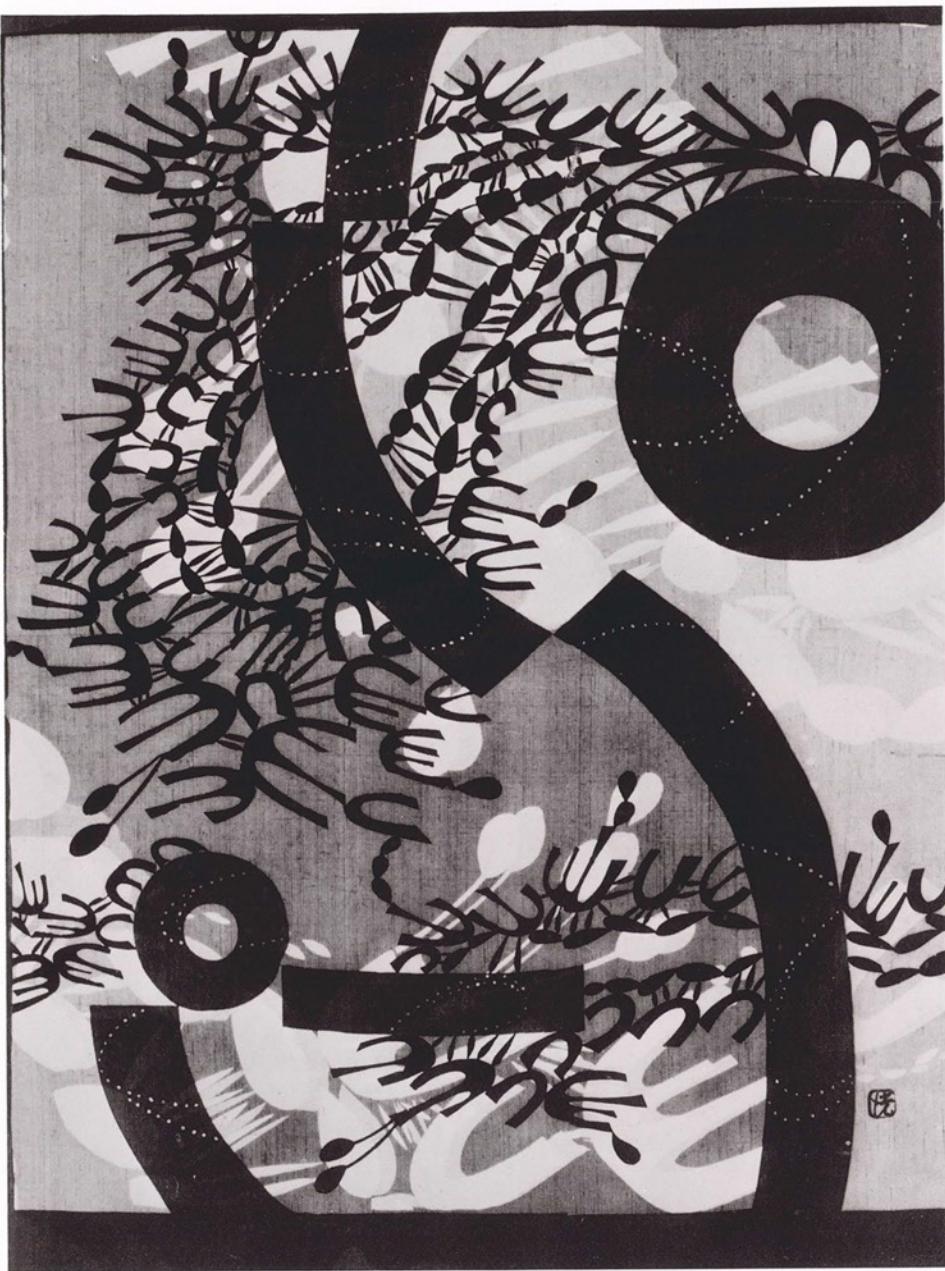
準大賞 山本梅吉 若者(写真)



美術奨学会賞 明地春海 旅つれづれ(工芸)



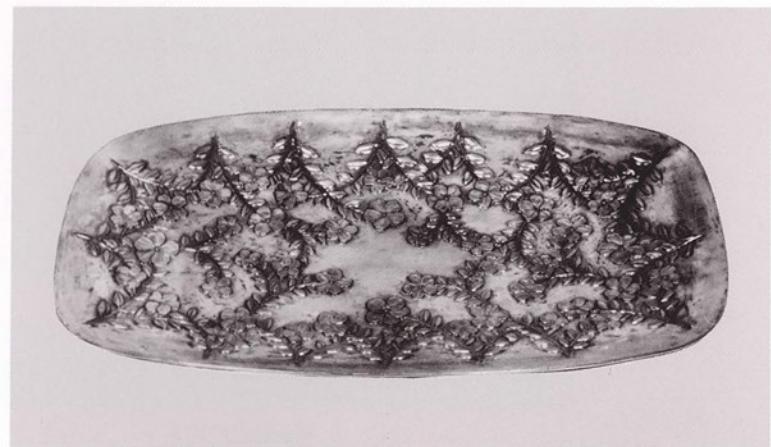
美術奨学会賞 清水咲子 白馬の神器 I(工芸)



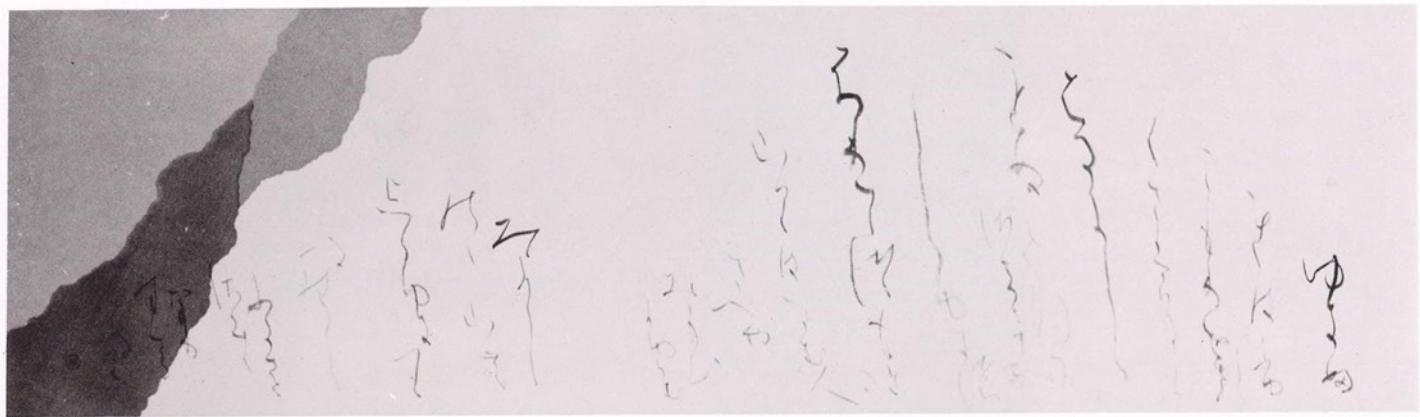
美術奨学会賞 高橋 洋江 不思議なメロディー(工芸)



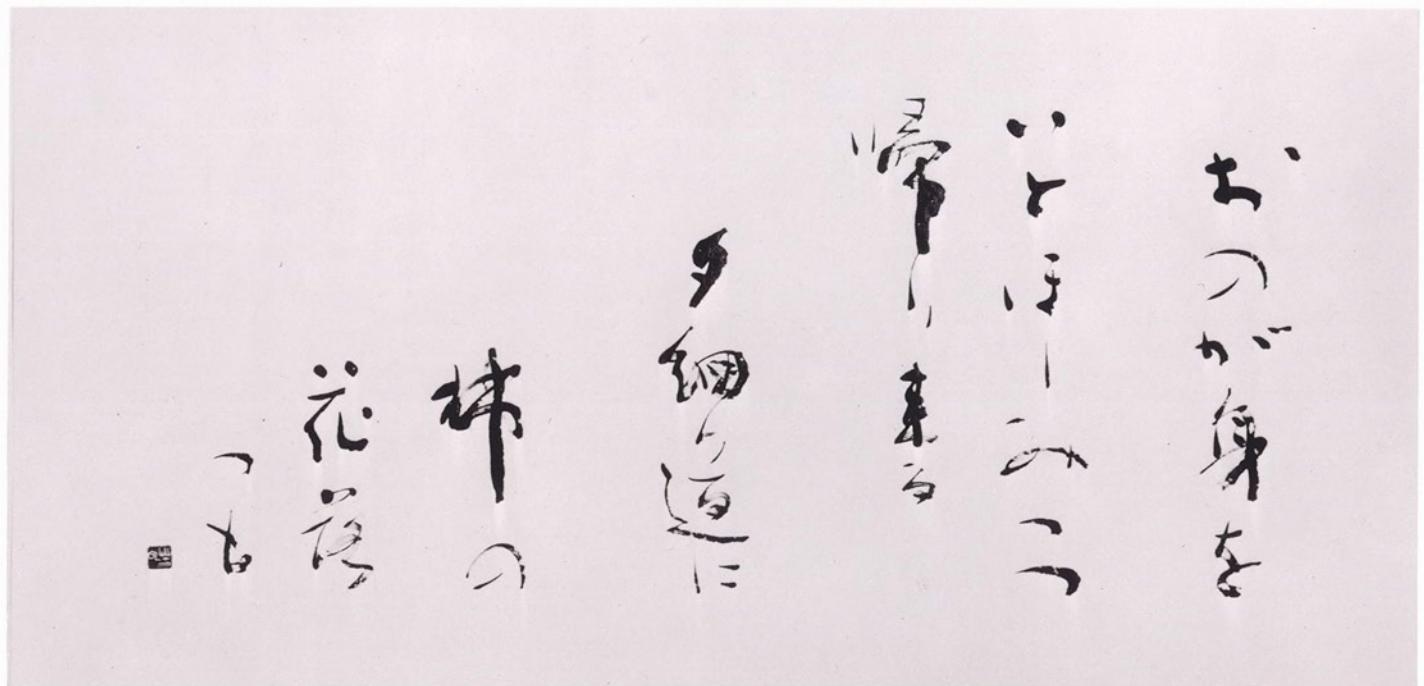
美術奨学会賞 野上桂子 飛立ち(工芸)



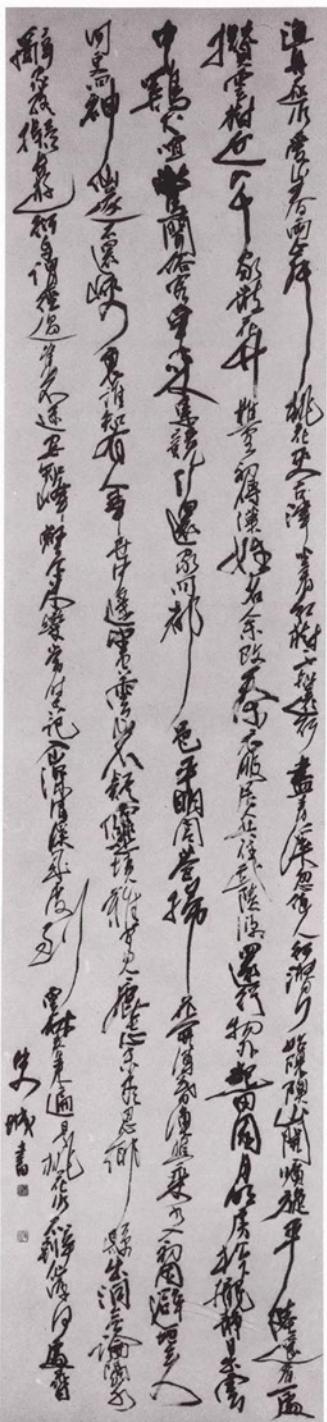
美術奨学会賞 宮道ユキ子 花紋朱塗盛器(工芸)



美術奨学会賞 阿部 啓園 古今集(書)



美術奨学会賞 船本芳雲 斎藤茂吉詩(書)



美術獎学会賞 大藤史城 王維詩 桃源行(書)

芙蓉閣不食午官

紫葉生櫻木蕭疏

是處因居舊後

非園樹飛鳥銜歸

歸鶯競舞青林

籠中便知餘未盡

餵食猶然如故不

官還首度華寒

閑高閣露餘暉

柳隱柳葉飛

禁裏疏鐘官舍晚

宿伴啼鳥夕吟

星移天易移珠爛

殊然徒覺物非人

詩國外翻辭賦

王維詩 菊中之方

美術獎学会賞 鈴木蓉処 王維詩(書)

蘇武牧羊

長煙落日孤城

明月孤光灑長江

無聲楚雲凝

但使願無違

上書生讀罷徘徊

敗木照孤陽

起行至此半疑思

子孫雖一念孤懷

空床日日思

愁眉霜色黃

擣衣溫情急急期

可憐青衫綠衣郎

瓦金歌聲悽絕

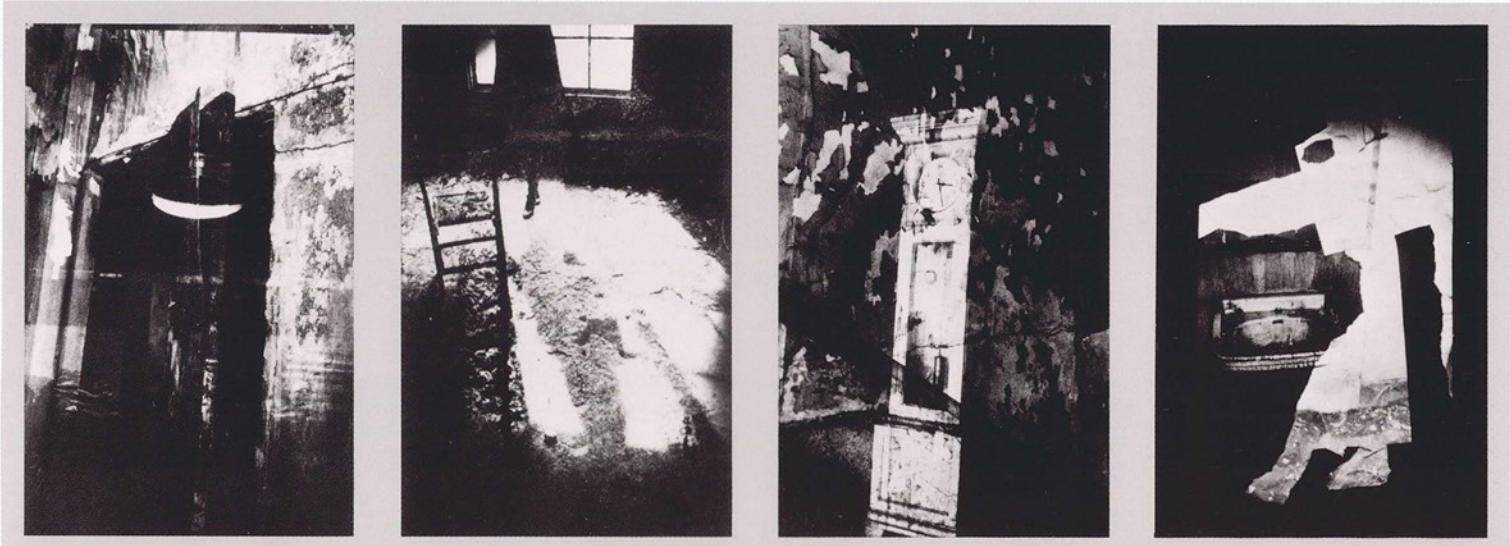
元劍舞霜毫暮

一劍寒星秋草里

苦賈難逢志士心

陸游詩 秋興

美術獎学会賞 原茜処 陸游詩秋興(書)



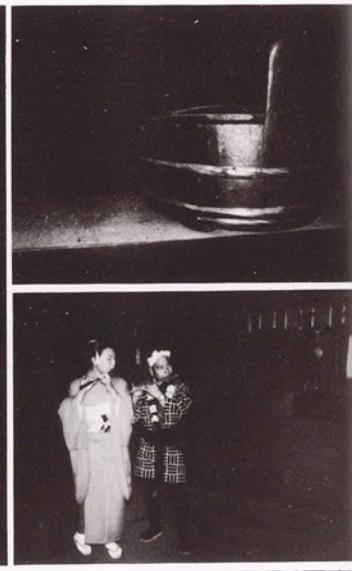
美術奨学会賞 千屋栄市 残像(写真)



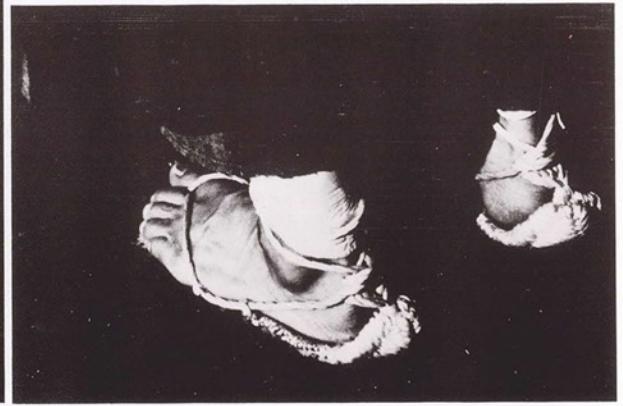
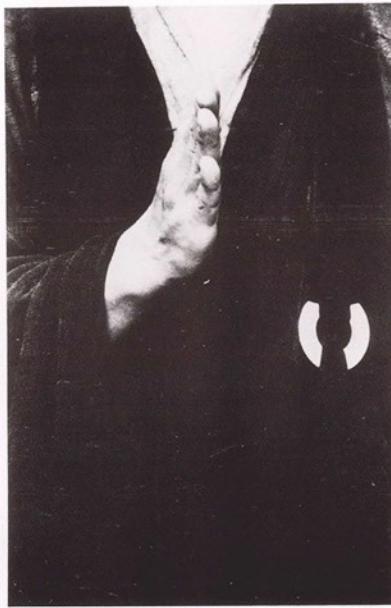
美術奨学会賞 根岸克明 朝(写真)



美術奨学会賞 長岐通正 残照の岳(写真)



美術奨学会賞 市原欣一 遠野祭日(写真)



美術奨学会賞 中西栄造 托鉢(写真)



美術奨学会賞 近藤一成 太陽「序曲」1・2(写真)



美術奨学会賞 望月従道 北の漁港(写真)



美術奨学会賞 吉田一雄 天に近い村(遠山郷下栗村) (写真)





美術奨学会賞 萩谷芳美 夕景(写真)



美術奨学会賞 鷹脣三郎 雲富士(写真)

# 受賞作品目録

## 日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形

### 大賞

前本利彦 暗い部屋 I・II

日本画

### 準大賞

星兼雄 階段のある 洋画  
鈴木明 光(透過・吸収・反射・屈折・偏光) 立体造形

### 美術奨学会賞

西川正美 ときの景 洋画  
加藤豊紀 大気 1 版画  
安丸信行 箱・流動体・切る 立体造形

### 近代美術館賞

加藤安佐子 影 No.3 洋画

### 県議会議長賞

森田伸 エチュード I 彫刻

## 工芸・書・写真部門

### 大賞

川口流坡 菅原道眞 詩

書

### 準大賞

市村富美夫	二人	工芸
岩澤健吾	body	工芸
門田ヒロ子	花心	工芸
岩沢蕙堂	冷泉為恭の歌	書
藤野清嵐	劉滄詩	書
山田愁風	金冬心	書
倉又光顕	泥だらけの青春	写真
山本梅吉	若者	写真

### 美術奨学会賞

明地春海	旅つれづれ	工芸
清水咲子	白馬の神器 I	工芸
高橋洸江	不思議なメロディー	工芸
宮道ユキ子	花絞・朱塗盛器	工芸
野上桂子	飛立ち	工芸
大藤史城	王維詩 桃源行	書
阿部啓園	古今集	書
船本芳雲	斎藤茂吉 詩	書
鈴木蓉処	王維詩	書
原茜処	陸游詩 秋興	書
千屋栄市	残像	写真
根岸克明	朝	写真
中西栄造	杜鉢	写真
長岐通正	残照の岳	写真
吉田一雄	天に近い村(遠山郷下栗村)	写真
萩谷芳美	夕景	写真
近藤一成	太陽「序曲」1・2	写真
鷹觜三郎	雲富士	写真
市原欣一	遠野祭日	写真
望月従道	北の漁港	写真

# 入選作品目録

## 日本画

飯野 静江 ほろほろ鳥と女  
中村 碧 コリイカ I  
佐々木史江 神の水  
加藤 敏夫 ベルセボリス映ゆ  
山本ヨリコ あるひあなたを迎えましょう！  
大島司郎 交叉「銅鏡」  
宮前正樹 1979作品II  
遠山洲平 鏡の前 II  
品川成明 群泊  
松倉茂比古 青い月  
浅野 光 夢幻  
海老根美紀子 無為と倦怠の日々  
井上耐子 風の路  
森川典子 風が舞う  
古賀文子 萌  
山本直彰 歩く像のある風景  
山本明美 群像  
加藤由美子 ざくろ  
中村慎一 金色の世紀  
西松玲子 想う  
仙波存乃恵 カれらの季節  
河村のぶ子 潮騒  
熊谷桃子 生々  
河野秀子 生息  
浅井有子 イマージュの少女達  
鈴木紀彦 浮雲  
伊藤恵子 テラコッタの囁き  
渡辺 薫 ポーズをとる婦人  
福田信子 煩惱の炎シリーズ5  
奥山祥子 韶音  
野崎丑之介 洛日  
川村紫朗 ひがん花  
能島千明 地下道

## 洋画

深川真理 いちじく  
井出文洋 出繩  
九多博 ふ 1  
小山栄 過ぎ去つた刻 (I)  
宮田翁輔 開発 2  
" " 5  
森直義 TROPIC OF CANCER II  
矢島良夫 内風景一落下 (2)  
南部正美 北国風景 (C)  
木村優博 朝市 3  
仲野泰生 mother and her son  
加藤宏 山湖 (I)  
たくし盛勇 人間の四季 (秋)  
奥田絃 何処へ行くマリオネット  
多田実 過疎別れの譜 II  
佐藤嘉夫 銅管  
竹村皓子 道化師  
加藤安佐子 影 No.2  
千葉彰一 下町  
新井恵子 叢生  
池島真理 グラス  
平田アツ子 CAOS 1  
青木道夫 回帰するのか  
川原孝二 資源危機  
遠城寺七郎 交錯 (スミ)  
知多秀夫 作品 I  
石塚三吾 化石になつた風景  
乙丸哲延 ワンダールーム B  
積山恭平 街 (B)  
森博美 三密-陸

## 三密-漆

森博美 三密-漆  
松波慶一郎 群れの中で一尺  
山本龍雄 像  
箱山直樹 (何もこばむことのない)無題③  
海野博子 人形の夢 A  
" " C  
鈴木節子 TERRITORY  
片野忠一 或る晴れた日  
公文淳子 作品 II  
倉橋元治 作品 80 I  
平和夫 ゆきどまりの時  
谷川義美 島群 (とうぐん)  
新保甚平 愉快  
小川清 CONNECTION 79-7  
清水悦男 記憶への彷徨 II  
野口広美 痕跡の景 I  
板倉敦子 人体 (1)  
山手政男 machine-like II  
菅野昌實 栖息元 (1)  
千葉章 安中精鍊所  
大久保俊夫 車中にて  
田中愛子 野分  
男谷省吾 袖ヶ浜  
小宮高雄 転身 (3)  
佐藤尚樹 Mannequins III  
武藤政彦 黙劇者 1  
米山肇 ハブティックな会話 II  
武田亮夫 彩 III  
藤原寛子 TIME & AGAIN (X)  
久松共子 WAVE "M"  
千葉文隆 ある風景 C  
竹下隆 沈着な情念  
出口佳子 カたぐるま  
清原太郎 お祭の夜

加藤恭夫	冬景(I)	曰向野桂子	バイナップル・ドリーム	大島弘義	ガリラヤの夕餉
萩原和子	静物	梶宏	赤の上で	鈴木雅彦	様態・痕跡4
風間美苗	午後の構築A	川村隆一	線上の滲み	村岡千秋	蟬
内柴静子	作品 80-Y	大石毅典	運ばれる時	岡本道治	もう一つの世界(球) XI
"	" 80-X	井上郭子	カミアソビ	長谷川真	penguin 2
三橋敦子	五月の窓辺	あさい敏恵	slanting touch II	押田陽子	木木の語らい(III)
山田裕子	ヨーロッパの印象 アルハンブラの裏街	中沢晴男	孤独な流星群		
田部井要	褐いた日 79-11	角地鎮雄	赤いまなざし		
上新知彰	子供(I)	青木和子	after summer		
高間夏樹	蒐集からそのD-2、D-3	高橋功	作品 79 P.P.		
泉谷淑夫	失楽園	利渉重雄	樹たち II	森田伸	エチュード II
深沢純子	The landscape with the fence	大庭明子	「シンフォニック・バレエ」II	井上麦	脱皮
菅原千恵子	サーカスandサーカス(I)	倉橋元治	作品 80-I	池田清史	日と日を渡る III
黒川洋	鳥 III	笹村一夫	虚-I	天野裕夫	罰多
佐藤正光	遠望 II	浦江妙子	Portrait 6	別府博文	H氏の首
水戸部千鶴子	変容する瓶たちA	藤田修	TOBACCO	松本工	BLACK SPEACE
中城芳裕	森の部屋 I	田中黎子	真冬日 B	松本雄治	おんな
庄司健一	Yo-Yo (B)	隈部滋子	Party II-Embryo's dance	角田行男	空間(B)
長谷川裕倫	矩 No.1	木内哲也	Untitled-11	坂井匠子	立つ
山口俊朗	イメージの消去	"	Untitled-14	加藤かづこ	男の頭部
山下謙介	Milky way	鈴木ヨシオ	憂うつな日々-壁ぎわ	李赫	抗
鎧本純一	F-79-7	"	憂うつな日々-窓辺	坂井彰夫	MAMMA
臼井恵之輔	仮定 79-7	鈴木恭子	人々-(III)	鈴木雅明	母の椅子
<b>水彩画</b>					
松原賢月		鈴木静子	タランテラ	若鍋寛	Kのトルソ
山本秀夫	虚空	矢田博次	The Prime Minister Bien loin d'ici (ここから遠く離れて)	高坂博美	裸婦
		鈴木佐知子	ヨコスカドーブ板シリーズ 「4人のオンリー」	岡崎直	亜津子像
		杉山一夫	七つの空	杉英行	私は女
		寺田有恒	ネガティブ スペース	高橋順一	判断「構造レポート」
		曾我朝彦	蜘蛛	倉賀野博	黙
		門司豊	存在の風景 1		
		原英八	六人の女像		
<b>版画</b>					
石川一男	いきどおり	工藤忠孝	町 II		
		磯見輝夫	間奏		
<b>立体造形</b>					
				木村巧	EXIT BOX

木村 巧	システムNo.1(大磯より)	小林 望子	迷い道	菅沼 三千子	柄杓漆盛器
沼田 俊彦	正方形	小磯 弥栄子	挽歌	青木 博美	大地
丸山 精	同一老二	久保 加よ子	うごき	斎藤 政信	刷毛目鳥文象嵌大皿
坂田 一之	採光	宮崎 輝久	皿	佐藤 昌夫	彩華皿
前島 健治	風の音 No.11	渡部 はつ子	語らい	柿添 幾久次	冬濤
露木 順三	エサをあたえないで下さい	徳江 節子	見送る	"	冬暮り
浜田 真理	九枚の円柱	大久保 昭一	志賀高原	渡辺 千鶴子	息吹
高澤 正行	立方体 No.2	太田 光子	想(鎌倉彫盛器)	小沢 和枝	ひまわり(マット)
高橋 勉	水面が割り出す空間	坪木 里子	暢気	石川 武士	流円
なんば京子	波の默示録	山本 恵美子	スペースファンタジー	亀井 知子	木の夢
神山 明	二つの立方体 I	尾形 典子	染布	斎藤 英夫	角盛器流線
"	二つの立方体 II	若菜 武司	飾り台	奥野 花代子	タピストリー「青の流れの中に」
桜井 裕子	生滅	高橋 京子	飛馬	吉村 美枝子	組紐ネクタイ
八木 淳	79	後藤 寿美恵	熱砂の女	徳永 智恵子	プローチ 作品 I
斎藤 光弘	6.28e	松岡 美穂子	彫金七宝額	"	" 作品 II
山口 順子	状況Loop or Rope W-9	田井 行光	蒼春	小林 公子	舞妓
相沢 秀人	無題	渡辺 恵美子	水辺の彩	佐々木 雅子	道化
三藤 茂夫	WORK'80 "CUT-I"	桜井 光美	形	"	空
南 泉寿	無題	岩井 恵美子	深緑	佐々木 香	グレーゾーン
桜井 典夫	和 I	篠原 成子	平和	中野 佳子	夕映(スペースディバイダー)
"	和 II	勝田 智子	飾皿	和久 智代	核
吉川 英之	無題	加藤 静子	長着	山田 むつ子	しゃくやく
		中曾根 鑿	板蛸灰釉花瓶	市村 富美夫	一人
		伊藤 麻沙人	椿とジョウビタキの銅彩面取壺	村主 武	簡素 1(球)
		秦 敬子	雪輪紋大鉢	駒形 克明	有珠山火山灰釉陶筒
		石井 美江子	大和慕情 I	鈴木 亘	花瓶(練上げ)
<b>工芸</b>		木村 久美子	紫輝	宮本 正義	窮
中沢 秀	壁かけ	宮本 庸子	列	高木 参平	彩磁鳳凰文壺
武井 源藏	飛鳥(アスカ)	足立 治男	練込鉢「潮」	佐藤 のり子	タピストリー
村雨 昌子	告げる	久野 正雄	作品 1979	駒木 稔	愁
桑原 平治	壺(2)	金谷 研介	ラウンド	瀧川 政之	カトレヤの祈り
大内 章	雪と氷	渋谷 敦子	Banyan Part 1	吉原 聖子	瞬
川端 雅子	正藍染手織紬	関田 栄也	波紋	木村 鄉子	混沌と生成
田野佳代子	線	岩澤 洋子	鉢	加藤 説子	躍
西原 清志	薰				

林 菜美	Penetration of Blue	石 井 澄 水	柳宗元詩	泉 弘子	人恋ふる歌
藤田朗子	追憶	河 合 瑞 祥	劉長卿詩二首	石 坂 雅 彦	魏風頌鼠
吉田真澄	いにしへ 古に	高 崎 魏 嵩	梅堯臣詩	吉 武 真 弓	篆書
勝 文彦	黒い形態	横 山 芳 碩	蘇東坡詩	伊 神 孤 雲	西条八十の詩 写生
小林信子	暮愁	吉 田 春 翠	寒山詩	清 水 金 次	馬渉美意子の詩
倉田忠治	油滴天目茶碗	小 川 如 泉	良寛詩	石 井 富 代	近代詩文
八ツ橋博美	均窯壺	林 如 巖	良寛詩	萩 村 み ち よ	ののはな
黒沢伸子	あじさい	平 田 十 臥	高適詩	大 村 雅 子	近代詩文書（八木重吉詩）
"	せせらぎ	瀬 戸 翠 銘	漁父	渡 辺 美 代 子	近代詩文（雪の小坊主）
三嶋真人	波(夕照)	伊 藤 翠 香	牧水の歌	森 山 可 余	かくれんぼ
権 相五	函	安 藤 青 山	白居易詩	戸 村 和 憲	童謡
江成房子	それ!行こう	秋 山 松 香	金子薰園の歌	林 猛 雄	八木重吉の詩
尾島英雄	鎌倉彫鉢	泉 金 映	和歌一首	浜 本 茂	西条八十の詩（芒の唄）
高城由美子	野の祭	長 谷 川 秋 蘭	和歌二首	小 山 誠 一	近代詩文書
平松敬子	三部作うづくまる	登 坂 天 夢	白居易詩 官牛	土 田 武 子	八木重吉の詩
小峰枝美子	極込象嵌花挿	大 畑 薫 昭	かな歌二首	川 瀬 魚 石	近代詩文（七つの子）
三輪博子	大地	明 石 蕎 州	慈円の歌	八 木 香 葉	小椋佳詩
大槻昌子	銅金彩丸箱	木 下 蕎 苞	尾上紫舟の歌	佃 知 子	谷川俊太郎の詩
"	銅波紋丸箱(一) カたち	棧 敷 東 石	臨高野切第一首 卷二十	金 子 修	桃子（八木重吉詩）
樋村允彦	'80一態「誕生」	北 島 芳 谷	阿弥陀経	大 木 晓	手風琴
高橋富貴子	七宝飾皿“想”	武 田 清 美	袁宏道詩	普 川 清 子	中原中也の詩「幸福」
中村裕子	椿大皿	松 橋 秋 塉	新古今和歌集“春”	吉 沢 青 妻	陸士衡詩
書					
長島正恵	万葉集	石 川 蒼 丘	きみならで	杉 山 紫 苑	唐詩
金子裕子	万葉集	日 野 珠 光	伊勢物語	阿 部 紅 雪	唐詩
矢追章子	万葉集	上遠野富久子	蘇軾詩	青 木 不 搶	夢歌
柳澤弘子	うちわたず	栗 橋 東 崖	般若波羅密多心経	星 光 陽	我所思行
松永光鳳	方丈記	溪 口 美 智 子	山中曆曰 佐藤春夫詩	森 草 坡	陸游詩
安藤蘆穂	黄庭堅詩	杉 山 良 子	三好達治詩「桃の花さく」	田 澤 兆 処	李商隱詩
赤井桂山	贈瀬兵曹(李嘉裕)	座 間 た み 子	佐藤春夫「雪の浅間山」	紫 岡 明 洞	李郢詩 劉谷を送る
池田撫草	李賀詩	竹 下 幽 光	牛灘丹楓(釋顥常)	菅 野 泰 人	山園山梅
		落 合 正 男	七言絶句	鎌 田 栄 処	韋應物語
		野 田 翠 蘭	和泉式部日記	生 嶋 静 月	李商隱詩
		秋 本 耀 雨	華嚴	加 藤 州 処	元好問詩
		金 子 如 龍	江上吟	近 藤 春 柳	陸龜蒙詩

吉田翠山 欧陽騫詩  
尾崎静鳳 李白詩  
谷口春泉 李商隱詩  
奥田大岳 賈島詩  
佐藤柚処 蘭香 神女廟  
横田南畠 杜甫詩  
南茗陽 李白清平調詞  
加藤翠郷 白楽天詩(太行の路)  
牧山逸風 唐詩  
小川紫流 白楽天詩  
柴田李笙 夏目漱石詩  
大塚翠峰 皇甫冉の詩  
東鈴峰 張九齡之詩  
高橋黎峰 李賀之詩  
奥翠月 劉長卿詩  
田中照峰 長安古意(七言古詩)  
田村松石 吳昌碩の詩  
端山青蘭 杜甫の詩  
江川青漣 盧鑰之詩  
関口大湫 李商隱詩二首  
沓掛紫陽 凤仙花  
五味彩翠 開先瀑布  
砂川匱村 杜甫の詩  
真田華村 韓愈詩  
高橋厚子 万葉歌一首  
須貝越葉 趙詩  
菅原秋峰 杜甫詩  
篠田茂山 杜甫詩  
関湖園 唐詩(杜甫)  
八島幽月 杜甫詩  
三津木芝影 杜甫詩  
須山光華 寒山詩  
原田義鳳 杜詩  
高橋蒲川 杜甫詩

稻垣隼人 唐詩  
榎原右鳳 関戸本古今集抄  
菅恵美子 鶴  
**写真**  
若林孝 冬の山里  
堀江忠男 種子島  
西村信子 黒のリズム  
菊地原俊二 水行  
加藤惣平 遙かなる祭  
千屋保広 アメリカ模様1、2  
矢花一弘 家路  
平綿良則 恐山の印象  
亀井貴司 晩秋  
関勇 湯上り裸婦  
根岸克明 ホリゾンタルスペイス  
清水啓一 新能  
越川敏子 わたしの東欧旅行  
(モスクワ赤の広場)  
小川正治 サーカスの顔  
木村芳雄 マフラの女  
栗原宗七 曰かけ  
菊地喜保 幻魚の舞  
桜井開次 夏草  
相沢正義 秋色の涸沢  
南信一郎 群羊草  
今村重明 清流譜1、2  
藤原義守 凉風  
河井茂子 フラメンコ  
杉浦幸雄 思春期  
山田久美夫 落葉  
榎田守 創作  
横山祥一 黄色い秋

佐野健一 冬の朝  
望月勝美 晩秋  
佐藤健夫 草の波  
土屋誠一郎 野の片すみで(2)  
" ほほづき  
中川みさご まつり  
内田幸夫 秋色の湖  
増田智生 野生鹿1、2  
中尾務 夢みる蝶(I)  
鈴木宏 山の宿1、2  
佐藤誠治 あぜ道  
堀坂和夫 六月の漓江  
加藤義雄 彫刻の印象  
徳江定男 下町の演芸場  
松浦好雄 宮ヶ瀬小学校2年生須藤級  
エンドウシンジ 空間へのメッセージ  
柿木照夫 指輪の女  
伊藤省三 祭り  
佐野栄治 脱出  
山ノ口健一 ハブニング(原宿)  
本間英雄 早春の穂高  
石渡四郎 五月の暑い日  
松江民雄 パールの女  
松野きん子 1979年秋裏磐梯紀行1、2  
仁平廣 浜降祭  
安部正之 塗師  
佐々木孝義 ヤングタウン原宿  
香山修 幽玄  
松永清男 おいらん道中  
石川清 モアル志望  
梅田修 源(白馬雪渓)  
" サマーブリーン  
佐藤明夫 マルジブの海  
梅田章 厳冬に生きる(下北の野生馬)

山下昭雄 小土肥秋色  
勝俣晃男 花(2)  
" 砂丘に働く1、2  
原田孝行 祭りの子  
渡辺京子 出来た(上・中・下)  
松田正則 公園にて  
向原辰雄 常念岳  
三井文一 雲海  
上原公平 月  
高本徳久 晩夏1、2  
千葉久男 ヨガ修行僧(ネバールカトマンズ)  
成田光芳 明日への夢  
片岡順一 握る  
星子省造 ほんでん祭りの日  
石川昭朗 沈んだ子猿1、2、3  
高橋宰子 離島航路1、2  
戸塚吉久 雨  
坂口正臣 はれた日々



審査経過

## 日本画

日本画の搬入点数は前年と殆んど同じで、僅に減った程度だが、入選作数は変らなかつた。この結果は初めから入選作数を前年と同数にしようとしたわけでは決してない。3人の審査員が、白紙の状態で全出品作品を数回鑑識した結果、しづんにそうなつたのである。各自全くの自由裁量が前年と同数の入選作をきめたというのは、とりも直さず県展日本画の水準が決定してきたことであろう。

作品傾向にも作家自身の感情を率直に吐露しようとする素直な作画態度が現れていたが、技法的なテクニックになるとまだまだ不満を感じるものが多い。入選作にもその不満のあるのがあるから、入選しなかつた作品にはそこに原因があると思っていただいて一層の精進を願いたい。もつとも使いこなすだけでも多くの時間と経験を要する日本画のことだから、一朝一夕に技法をマスターするのは至難である。どうか試行錯誤に屈さず頑張っていただきたい。

3審査員が一致して推した7作品を賞候補とした。その候補7人の中に県展常連がたつた3人だつたのには驚いた。しかしそれは出品者の顔触れが毎年変わることの証拠といえるだろうし、入選常連でない新顔の出現は、それだけ県在住の日本画家の層が厚くなり、数がふえていることを物語っていると思う。日本画のために喜こばしいことである。その中から、いや候補だけでなくて入選作の中から最高作1点を選出するのは難しい。審査中、その困難さを考えながら比較したのだが。

最高ではなくとも実に優れた明るい情感を表出した作風など、心惹かれて忘れられないものがある。画歴を見て某展の常連作家と知り、なるほどと実力の程を感じたことである。

最後に、工芸部門へ出品した方が適當と思われる力作があつたが、日本画とはどうしても納得いかないので、残念ながら愛せざるを得なかつたことを付記しておく。

竹田道太郎

●審査員：加藤東一・工藤甲人・竹田道太郎

●応募点数：80点(61人)・入選点数：37点(36人)

## 洋画

第1回以来、15回づつけて審査委員をして来たが、遺憾ながら年々応募作品の水準が上っているとは言えない。下っているとも言えないが、最初のころの熱気が失せ、審査会に出ることに智的な期待や気持の張りが減らされて来たのは事実である。

芸術的生産力の衰弱、低迷は広範に観察される現象だから、神奈川県の美術家たちだけに、毎年前年を凌駕する質と量の作品をもつて審査員を襲撃せよと言ってもそれは非現実的な号令に違いない。

しかし僕はこういうことは言えるのではないかと思う。

これから世に出ようと意志する美術家たちは、自分は何を描く美術家でありたいかの問題にもつと沈潜すべきだ。文学作品に比べて、何を描くかと如何に描くかのあいだの分別をつけにくい美術作品の制作にあっては何を描くかはほとんど常に何を如何に描くかの形で制作者に迫るにきまっているが、如何に描くかだけに腐心してすむのは、すでに名声を得て、新しい世界を造り出すことを断念した画家だけだろう。

すでに始めたしごとだからそれを少しても余計連係するために、これは踏み固められた道であり、これでやってうまく行っている例はいくらもあるから、などという制作上の口実が見えすいた作品が多すぎる。

ことしはロシヤ・ソビエト絵画の感化模倣のあの顕著な出品作が少くなく、これは始めてのことだが、影響の源泉の見えすぎる作風は感心しない。それに写実的な作風は、それが優れた作品であるためには鋭敏な知覚は言うまでもないとして絶大な構成力を必要とするこを銘記すべきだろう。

精神的爪跡の見られない写実は、様式主義的抽象にも劣るのだ。

第1・2回あたりを改めて振返ると、その出品者たちは、それぞれそれまで意識的に自分のうちに溜めていたものを吐き出したという感じの制作を寄せていた。もう一度ああいう風であつてもらいたいと思う。

寺田 透

●審査員：江見絹子・奥田博・国領経郎・田中峯・寺田透

●応募点数：621点(312人)・入選点数90点(85人)

## 版画

この数年来、どこの会場でも見受けられる傾向なのだが、「誰れかのモノの様で誰のモノでもない」と云つた作品が、なにかと目に付くのは本展も同様である。これは版画の技法に起因する部分が少くないが、やはりスタート時点で、若い人達が有名作家の個性が技法の持つ特殊性に大きく依存して居る事に気づかずに、似かよつた技法や画面構成を自らの作品にそのまま取り入れてしまうからなのだろう。さて選考時の印象と云えば、全体的に潑刺とした個性に乏しいけれど、技術的には安定した版画特有の密室的な画面を無難にまとめた作風が多かった。そうしたなかで、神奈川版画アンテパンダンで育って来た若い作家達の作品が目を引き、銅版画の「ドブ板シリーズ」や「ザ・プライム・ミニスター」等がそのユニークさを買われて賞候補に押され、木版画では大画面を少しの破綻もなくアメリカ西海岸の風俗をうまくまとめ上げた「大気 I」が、又墨一色ながら空間的にも構成力にも実力の充実した「間奏」が、最後まで大賞候補作を競い合つた。

又、応募点数では昨年より3割程増え、4～5点搬入する出品者も増える傾向になる。それらの作品は内容技術共に充実したものが多く、版画部門の質向上を担つて居る。しかし展示スペースの制約から「より多くの人々の参加」と云う余りにも民主的な県展的発想によって、そうした複数入選作も最後には一点のみにしぶられてしまい、複数入選者の作品群を中心に据えた。充実した展示が版画部門では期待できなくなつばかりか、大賞選考時の大きさによる不利をも解消できず、結果的に受賞一点の不振に終つた事は非常に残念である。版画の作品の大きさも然る事ながら、今後は版画賞候補作は二点づつ提出し、毎年4～5人の作品は複数展示する様提案したい。最後に審査風景を各部門ごとにビティオシステムを利用して、公開できる様になる事を希望して筆を置く。

若江漢字

- 審査員：斎藤清・斎藤寿一・柳生不二雄・若江漢字
- 応募点数：190点(69人)・入選点数：42点(40人)

## 彫刻

今年の彫刻の出品点数は昨年に比べ多少減つているが、大きな彫刻の出品が目についた。また、1人で2点も出品している作家もいて、彫刻のように制作に時間も経費もかかるのを、と考えると、県展に参加する作家の意欲を感じさせた。

今回の審査は、彫刻、立体といった垣根を取り去り、合同で行つたが、彫刻と立体の独自性を尊重しながらも、共通の土壌に育つ造形の分野であることをみんなで認識していたので、結果的にはよかつたように思う。また、審査は1次、2次と回を重ねて慎重にやつたので、或る水準以上の作品が選ばれた。出品作の中には、せつかく大作に挑んだのに、立像彫刻の基本である造形的にも心理的にも“立つ”ことの大切さを忘れていたり、量感の密度と形態の関係が悪かつたりして選に漏れたのがあって、今一息の努力が望まれる。

出品作36点の中では、森田伸の「エチュードI」が印象に深い。この作品は乾漆の技法による座像であるが、内部構造の組み合わせがしっかりとしている上に、細部の表現に味わいを見せ東洋的な雰囲気をかもし出している。高橋順一の「判断・構造レポート」は、石と鉄を組み合わせた平面的な作品であるが、彫刻部門では珍らしい抽象的な作品である。石の塊を鉄板で上下に、直方体の鉄塊で左右に切り裂く心理的緊張を造形化した魅力的な発想だが、今一つ、構成の仕方が気になった。松本雄治の「あんな」は小品のブロンズだが単純化された形態の中に土俗的な雰囲気を漂わせていて可能性を感じる作品になっている。杉英行の「私は女」は石膏の立像だが、若い女の潑刺とした姿をとらえていて感じがよい。しかし、量のとらえ方に、もっと内部からはたらきかけるを感じとつて欲しいと思う。

彫刻の制作は、具象であれ抽象であれ、時流の傾向に流されることなく、時をつき抜ける課題をもって励んでもらいたいと考える。

斎藤顕治

- 審査員：斎藤顕治・針生一郎・溝口寛
- 応募点数：36点(27人)・入選点数：20点(19人)

## 立体造形

今年度、立体部門の応募作品数42点、入選25点、23名であった。昨年の立体部門応募者数22名、作品数35点に比べ、倍近い応募者数、作品数になっている事は、立体部門の拡がりを意味し興味深く思うが、それなりの問題をも提出していたように思われる。立体部門が神奈川県美術展に設置され、地方展としてはユニークな存在を示していると聞くが、これはより現代美術の複雑多様化した 素材、思考、理念、表現に対応すべく、部門と解釈したいのだが、そこには立体造形という概念的な形式性を少なからず見た様に思われる。今回の作品において様々な素材を使用して作品を制作しているが、その作品の背後にある理念、思考のなにかに歴史的態度又、個人の独自性、実験性等において、今後の発展に促す事を思った。

今回、立体部門は搬入場所が彫刻部門と、となり合わせに置かれ、又立体部門は彫刻部門の審査員といつしょに審査にあたつたが、そのさかい目が解からないとの評もあつたが現代において当然とも言える。又諸作品の力量が高いレベルにある事は、ただ地方展というだけでなく美術そのものに、様々な問題もなげかけてくれるだろうと思われる。その中で神奈川県という東京にとなり合わせ、世界に開かれた窓をもつてこの特殊性をもつた地域性、局地性との対応が見られる作品が見られなかつたのは、どうしてであろうか。現代において個の拡がりをもつことが出来れば出来る程、個々の局地性を失つてはいけないと思う、今後の課題とする事を願う。

その作品群の中で審査員による関心度の高かつた作品は次の作品である。

鈴木明、光(透過・吸収・反射・屈折・偏光)、安丸信行(箱・流動体・切る)、木村巧(システムNo.1『大磯より』EXIT BOX)、浜田真理(九枚の円柱)

高山 登

●審査員：今井由緒子・斎藤義重・高山登・弦田平八郎

●応募点数：42点(31人)・入選点数25点(22人)

## 工芸

県美術展は回数を重ね15周年を迎え、一段と関心も高まり、今年は予想以上に搬入数も増えている(260点、前年比52点増)。しかし、その内容は必ずしも素直に喜んではばかりいられないが、さすが極端に趣味的なものは減っているが、全体にいささか考えさせる面があつた。

いつも応募作品を取捨選択し、如何に限られたスペースに納めるかという苦労を強いられるものであるが、今年はその逆の心理が働いたのを否定できない。その意味で審査には例年になく時間をかけ苦心したものである。結果的に極めて厳しい入選率があつた。

云うまでもなく工芸はかなりの技術的な修練が必要であり、そのうえで素材を駆使して、自らの個性を發揮し発想を昇華させた創造性豊かなものが望まれる訳であるが、これが一朝一夕に人材の出にいく要因にもなっている。しかし、何よりもこの原点を確認し、再考を望むのは欲ばかり過ぎであろうか。ともあれ大賞候補になつた市村富美夫の染色「二人」は不振の工芸にあって出色であつた。作者の指向するものが力強い造形理念に裏打ちされ、大胆な構図と色彩の対比は明快であり、リズミカルな描線も効果的に腕のたしかさを感じさせた。豊かな創意がうかがえ、現代の息吹きをもりこんでいく感覚は今後が楽しみである。他の受賞作である岩沢健吾の木芸「body」、門田ヒロ子の人形「花心」、高橋光江の染色「不可思議なメロディー」等に注目した。ただ、ここでも取りあげるものは少なく、授賞選考に申吟したことを附記したい。

我々は、通常一つの運動体がたどる創生期、成熟期、衰退期と順にたどる色あせたパターンを、この県美術展にあてはめることを快よしとしないことは云うまでもない。何よりも県にささえられた豊饒な芸術環境のうえに、この展覧会が立脚していると確信しているからである。今後の大いなる展開に、なほ期待を寄せたい。

永井鉄太郎

●審査員：赤堀郁彦・市橋とし子・江刺栄一・名務鑑三・

永井鉄太郎・南雲龍・蓮田修吾郎・浜田真爽子・松井三郎

●応募点数：260点(180人)・入選点数：106点(100人)

## 書

書部門は書の特殊性よりして一人一点主義であり、その搬入点数は昨年より16点多い200点台に乗った。もちろん作品の増加のみが隆昌と言うのではないが誠に喜こぼしい現象である。その上本年の作品の特徴は類型的なものが非常に少ない事である。それぞれが各自の持味を出し努力作を発表してくれた事であつた。その結果下部層の作品と上部の差が極めて僅少になった事で、これも今回の特色である。従つて、鑑別には特別の考慮をした。もちろん入選点数の制限からして出品点数の増加は同時に選外点数の増加に結びつくという非情さが出た事もやむを得ない事であるが特に選外作品においては慎重に見直した。落選の諸君は誠に残念ではあるが再度を期して貰いたい。

入賞作品も高度の入選作品の中からわずかの差で決つたわけでどれもが甲乙つけ難い力作揃いであつた。特にグランプリ受賞の川口流坡君は二度目の受賞で、その力量の程は知られているがあの繊細でテリケートな線を巧みに生かしたものであつた。その他岩沢蕙堂君以下もこれに続くベテランで見事な作であつた。年々県美術展が向上して行くことは欣快に堪えないところであるが各自は自己のうちにある問題を解決してよりよい作品を逐次発表して貰いたい。

殿村藍田

- 審査員：池上鶴洋・重田翠村・殿村藍田・比田井南谷・松本利一・吉田鷹処
- 応募点数：201点(201人)・入選点数122点(122人)

## 写真

県美術展も15回を迎へ、写真部門も一段の充実ぶりを發揮している。こここのところ応募点数は毎年400点位であるが、壁面の関係で入選数は90点。2割2分5厘の入選率である。応募作品のレベルは、年々向上するので、いい作品が落選になるのは惜まれる。又、その90点の中から12点の入賞作品が生まれるわけで、入選も入賞も実に狭き門である。しかし、そうした粒よりされた珠玉のような佳品の展示によって、展覧会そのもののよさが出てくるわけである。入選作品の90点は、いづれが入賞しても妥当なものばかりで、神奈川県の作家として、大いに自負していいと思う。

準大賞の倉又光顕氏の「泥だらけの青春」は、ラフビーの悪戦苦闘の模様をクローズアップして秀逸である。過去のスポーツもののなかで、一きわ光っている。準大賞の山本梅吉氏の「若者」は、一枚写真で的確にナウな若者たちを捕えている。サーフィンを担いだ女と男の面構えが見事である。足元が切れているのは欠点で残念。

美術奨学会賞の萩谷芳美氏の「夕景」は、省略した背景の山の風景と、バレリーナの姿態がたくみに組合されて、洒落た美しさが好ましい。中西栄造氏の「杓鉢」は、克明に杓鉢僧を描いた点に打たれた。近藤一成氏の「太陽・序曲」は、太陽をこれだけダイナミックに表現した力を買いたい。鷹賀三郎氏の「雲富士」は、絵葉書のこじんまりした通俗的な富士ではなく、恐しげな厳しい山として表現されたのが圧巻である。吉田一雄氏の「天に近い村」は、高い山の上にある素朴な村落の叙情詩を心象風に歌いあげている。市原欣一氏の「遠野祭日」、望月従道氏の「北の漁港」は、ローカルカラーのよさを満喫させてくれた。根岸克明氏の「朝」、長岐通正氏の「残照の岳」は、ときに風景作品の佳作である。千屋栄市氏の「残像」は、抽象化のテクニックをたくみに駆使して成功である。

奥村泰宏

- 審査員：奥村泰宏・白井達夫・田中雅夫・永田一條・浜口タカシ
- 応募点数：368点(155人)・入選点数：151点(59人)

## 大賞・準大賞受賞者(第1回～第15回)

### 大賞

第1回	40年度	大森 運夫	九十九里	日本画
第2回	41年度	広瀬 義男	作品 I	洋画
第3回	42年度	垣内 治雄	坐る	彫刻
第4回	43年度	川村 直子	69-A・69-B	洋画
第5回	44年度	山井イク夫	Lady 70-1・2	立体造形
第6回	45年度	伊藤 栄	天涯巡礼	日本画
第7回	46年度	中西 新太郎	落日	洋画
第8回	47年度	佐々木英夫	人間の風景 1・2	版画
第9回	48年度	河原 明	蜻蛉	彫刻
第10回	49年度	大山 鎮	語り	日本画
第11回	50年度	鎌田 恵子	Lost my way	工芸
第12回	51年度	泉谷 淑夫	愁傷のモニュメント	洋画
第13回	52年度	井上 麦	黒の女-'77	彫刻
第14回	53年度	坂田 一之	MIRROR	立体造形
第15回	54年度	前本 利彦	暗い部屋 I・II	日本画
第15回	54年度	川口 流坡	菅原道真 詩	書

### 準大賞

第11回	50年度	泉谷 淑夫	変容	洋画
第11回	50年度	金子 典義	母と子 〈甘えの構造〉	彫刻
第12回	51年度	原田 和男	ONE OF COSMIC JUNCTION	立体造形
第12回	51年度	高橋 勤	MELANCHOLY	写真
第13回	52年度	水谷 愛子	髪	日本画
第13回	52年度	伊奈 翠陽	近代詩文 三好達治作 大阿蘇より	書
第14回	53年度	水谷 愛子		日本画
第14回	53年度	東 曰出夫	四角い張力群	工芸
第15回	54年度	星 兼雄	階段のある	洋画
第15回	54年度	鈴木 明	光(透過・吸収・反射・屈折・偏光)	立体造形
第15回	54年度	市村 富美夫	二人	工芸
第15回	54年度	岩澤 健吾	boat	工芸
第15回	54年度	門田ヒロ子	花心	工芸
第15回	54年度	岩沢 蕙堂	冷泉為恭の歌	書
第15回	54年度	藤野 清嵐	劉滄詩	書
第15回	54年度	山田 愁風	金冬心	書
第15回	54年度	倉又 光顕	泥だらけの青春	写真
第15回	54年度	山本 梅吉	若者	写真



# 招待作品目録

## 日本画

小倉遊亀 古九谷鉢の白椿  
加藤東一 裸婦  
工藤甲人 奥入瀬まんだら  
片岡球子 安藤広重  
浅見信夫 作品  
大山鎮 漁師  
能島和明 渦

## 洋画

安喰虎雄 卓上静物  
石井佐一 天守と藤  
井上俊郎 檻橋のヤクシー  
江川光信 枯木林  
江添栄一郎 古代の守護神・太陽を担う  
獣神の像(古代オリエントの文明)  
江見絹子 子午線  
遠藤典太 さるすべりの木  
金沢博 原風景  
川口雄男 フランスの古いマドンナ像  
鬼頭暉 濱宮(もがりのみや)  
木村一生 気配  
小泉元生 木曾  
国領経郎 砂の壁  
桜庭彦治 冬の槐(えんじゅ)  
鶴剛 無題  
志村計介 富士  
柴田周一 blank III  
勝呂忠 思索する線・黒い球体  
瀬島好正 かたち  
千田高詩 正方園 79-17  
田賀亮三 一角獸のための大陸

田沢茂 鎮魂  
田代利夫 55-A  
田中峇 朝・そして僕は  
田辺謙輔 風景  
鶴田猛 原野の中の町  
寺井重三 踊り子  
中谷龍一 古い教会  
故 橋口加六 トレド  
広瀬一二 パリエイション3  
古川益弘 風景  
星崎孝之助 少女  
松本久男 北岳晚秋  
森秀雄 偽りの青空—古典的美容法  
森秀男 魔皇(まきょう)  
油野誠一 黄の風景  
奥谷博 Leonardo da Vinciの巨塔  
阿部和美 ペニス  
石田黙 点  
小清水金司 風景  
阪本文男 バラの座  
白鳥三郎 献花  
向井千代子 佛と花  
服部和益 河辺の精

## 版画

大内マコト 渦流幻景  
斎藤カオル 天守物語(征矢を捉える夫人)  
斎藤清 月雲(1)  
田島宏行 ラグタイムへの追想  
野村博 ブラックホール  
馬場椿男 のどかな風景シリーズより

馬淵聖 華と埴輪  
由木礼 白い建築  
柄木順子 作品-80-1(未知夜の国)  
斎藤寿一 宙

## 彫刻

伊藤芳雄 黒鳥  
井上玲子 移行体'80  
井上信道 おんな  
圓鍔勝三 夢  
圓鍔元規 ポーズする女(III)  
垣内治雄 羽化  
松本繁来 春の日  
坂上政克 A-1  
菅沼五郎 裸婦  
高田博厚 ダビンドラナート・タゴール  
長江録彌 聖  
西谷富士雄 若い女  
安田周三郎 髭(ひげ)  
斎藤顯治 原質形  
陶山定人 明日への道  
溝口寛 貌  
河原明 流れ

## 立体造形

高橋勝 旅行者(封印II)  
真板雅文 生物  
今井由緒子 Iien (8)  
高山登 遊殺

原田和男	Nagi "皿"	林喜美子	カトレア	伊藤撫劍	陶淵明詩
望月菊磨	BRASS RIPPING	石橋澄子	WAVERING LIGHT	伊奈翠陽	風景 "純銀もざい<„
須賀通泰	山びこ	野田芳正	瑞翫	鶴飼寒鏡	甲子紀行
若江漢字	現在美術の為の安楽椅子	前田金彌	静寧	及川初恵	白秋の詩
斎藤義重	作品	橋本公恵	月夜	大島嵐山	唐詩
		上原春代	薔薇	大西芳流	玄妙
		上村桑子	釣しのぶ	大道静波	黃山谷詩
		佐々木ゆき枝	閑曰	岡田扇香	島木赤彦の歌
		鐸木能子	風琴	川口芝香	萬葉の歌
		芝山吉邦	作品	久保田昭子	和歌
		南雲龍	風化の碑	小林小笛	良寛の句
安田律子	皿	平野トシ子	染付色絵椿紋壺	佐々木如空	空也上人詠詩
永井鐵太郎	グラフィカル・コンボジション	加藤皇	花瓶	斎藤丹鶴	杜甫詩
赤堀郁彦	無限の物体	林良達	遺されたもの	志賀正枝	和歌
岡村康子	風炉先屏風	佐藤靖房	志野壺	重田翠村	王漁洋詩
菅間ゆみい	南花 II	村主武	簡素	篠田朋泉	黃遵憲詩
原田光子	作品H	江刺栄一	風の風景	四宮撫琴	蘇軾詩
各務鑛三	クリスタル 花瓶	永田秋岳	鎌倉彌票文文庫	島津碧嵐	李白詩
吉田丈夫	クリスタル 花器	東日出夫	作品'80	鈴木龍雲	西陵夜居
青野武市	赤被芥子文化器	佐野登志子	想	仙場右羊	白馬非馬
大宮希陶志	黎明	國行道子	メランコリア	竹内鳳仙	五雲
松浦松夫	クリスタル「硝子の館」	近藤詠子	五行の祈り	竹田悦堂	春の夜の
今井久江	「蹟」	蓮田脩吾郎		田中真洲	登桜萬里春
慶寺丹長	黄銅 花器鸞	山下了是	赤い雲に湖	溪口幽城	佐藤春夫の詩「好曰」
中田呂尚	筒刷目文羽釜	新谷吉枝	ランプ	殷村藍田	薛濤詩
山口壽雄	唐銅 獣耳花瓶			中平南谿	養之如春
石川充宏	東方からの使者II			中村松堂	揮毫多雅趣
辻雅洋	Babble Box			中山鶴雲	月齋
吉田きみ子	想い			西川万象	李白詩
暮田延美	太陽の沈む時	青木香流	わらべうた	西村西洲	陳彭年讖誠類
佐藤もとい	草木染着尺	赤松万寿枝	山家集抄	丹羽蒼処	元好問詩
廣井樹美	想	天野翠琴	和歌首賀川典彦の歌	萩原櫛風	禪林句鈔四言
浜田貞爽子	紺着尺 里の縫	荒井香竹	近代詩文	比田井南谷	79-1B
平田徹子	山麓の花	飯原青洲	采根譚	船橋春浦	古歌
山岸南子	過ぎし日の悔恨	池上鶴洋	四大字	松本利一	近代詩文書
鎌田恵子	作品 A				

### 書

村上紫茜 吳嘉紀詩  
矢島撫周 白居易の詩  
山口清苑 唐詩  
吉田蘭處 元稹詩

### 写真

内山知治 旅  
奥村泰宏 眇惑の女  
塩田正男 シーバレス  
須田恒弘 ながれ  
野沢喜七 老樹造形  
平本昌義 褐いた日々  
田中清隆 裸婦  
佐治利雄 靖国の詩  
高橋勤 カヨちゃんのお嫁入り  
吉田健吉郎 春  
大谷正夫 わらべ唄  
田中雅夫 外宮  
中島倍三 婚礼の日

(順不同)



# 第15回神奈川県美術展委員会組織

## 顧問

### 日本画

小倉遊亀  
中島清之  
山本丘人

### 洋画

小山敬三  
斎藤義重

### 彫刻

圓鍔勝三  
高田博厚  
安田周三郎

### 工芸

赤地友哉  
各務鑛三  
蓮田脩吾郎

### 書

殿村藍田  
比田井南谷

### 写真

影山光洋

## 委員会委員

委員長代行・  
副委員長  
李家正基  
菅原寿雄  
竹田道太郎  
土屋利保  
寺田透  
土方定一  
三上次男  
吉田耕三  
神部由雄  
加藤東一  
国領経郎  
斎藤寿一  
井上信道  
斎藤義重  
各務鑛三  
殿村藍田  
奥村泰宏

(順不同)

## 大賞・準大賞選考委員

《日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形部門》  
井上信道  
加藤東一  
国領経郎  
斎藤清治  
斎藤顯治  
斎藤義重  
竹田道太郎  
田中峯  
弦田平八郎  
寺田透  
土方定一  
溝口寛  
若江漢字

《工芸・書・写真部門》  
奥村泰宏  
各務鑛三  
菅原寿雄  
田中雅夫  
殿村藍田  
蓮田脩吾郎  
比田井南谷  
三上次男  
吉田耕三  
(五十音順)

(順不同)

## 審査員

### 日本画

片岡 球子  
加藤 東一  
工藤 甲人  
竹田 道太郎

### 洋画

江見 絹子  
奥谷 博  
国領 経郎  
田中 岳  
土方 定一  
寺田 透

### 版画

斎藤 清  
斎藤 寿一  
若江 漢字  
柳生 不二雄

### 彫刻

斎藤 顯治  
針生 一郎  
溝口 寛

### 立体造形

今井 由緒子  
高山 登  
斎藤 義重  
弦田 平八郎

### 工芸

赤地 友哉  
赤堀 郁彦  
市橋 とし子  
江刺 栄一  
各務 鎌三  
永井 鐵太郎  
南雲 龍  
蓮田 脩吾郎  
浜田 真爽子  
松井 三郎  
吉田 耕三

### 書

池上 鶴洋  
重田 翠村  
鈴木 小江  
殿村 藍田  
比田井 南谷  
松本 利一  
吉田 蘭処

### 写真

奥村 泰宏  
白井 達男  
田中 雅夫  
永田 一脩  
浜口 夕カシ

## 実行委員

### 日本画

\*浅見 信夫  
大山 鎮  
能島 和明

### 洋画

阿部 和美  
越後島 進  
石田 黙  
小清水 金司  
河野 曰出雄  
阪本文 男  
白鳥 三郎  
内藤 雅彦  
服部 和益  
向井 千代子

### 版画

\*柄木 順子  
田島 宏行

### 彫刻

\*伊藤 芳雄  
垣内 治雄  
河原 明  
陶山 定人

### 立体造形

\*高橋 勝  
原田 和男  
望月 菊磨

### 工芸

石川 充宏  
\*佐野 登志子  
芝山 吉邦  
竹村 佳男  
野田 行作  
山岸 南子  
松浦 松夫  
安田 律子

### 書

\*大島 崑山  
志賀 正枝  
仙場 右羊城  
溪口 幽城  
西川 万象  
丹羽 蒼処

### 写真

伊藤 藤十郎  
\*大谷 正夫  
里見 力磨  
鈴木 健夫  
中島 倍三  
野沢 喜七  
吉田 健吉郎

\*印は各部門実行委員長



# 彫刻の森美術館

〈年中無休〉

箱根登山鉄道・彫刻の森駅下車歩いて2分

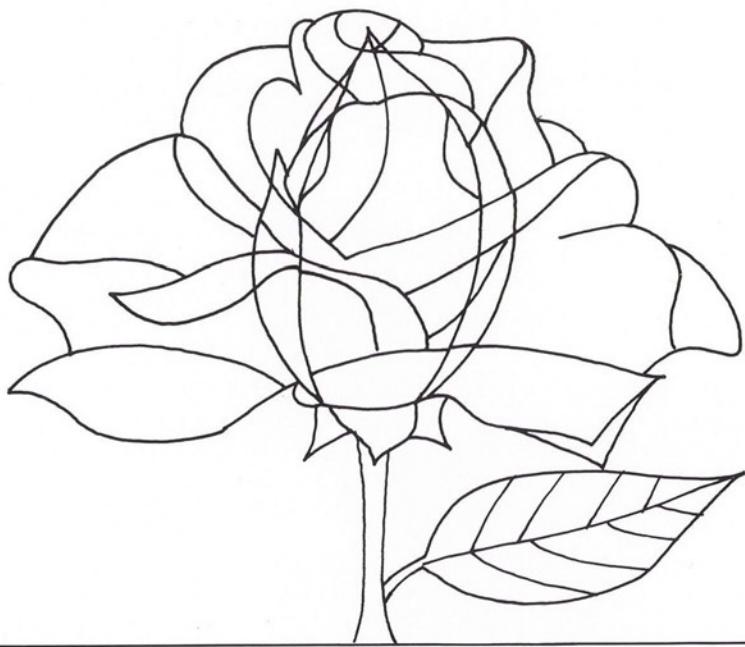
神奈川県箱根町二の平 TEL 0460-2-1161

第1回高村光太郎大賞展作品公募 詳細は当館へ



ヘンリー・ムア《ファミリー・グループ》1948-9

# 財団法人 神奈川県美術奨学会



## ■ 美術振興基金募集

当法人は、県内の美術振興と新人作家の発掘・育成を目的として昭和45年に設立、以後毎年「神奈川県美術展(神奈川県・神奈川県美術展委員会主催)」に出品された優秀作家に奨学金(美術奨学会賞)を給付していますが、基金を増額し、更に意義ある奨学金といいたしく篤志家の御寄付をお願いしております。

、会員登録を増設し、更に会員登録料金を改定する  
皆様方の御協力をお願い申し上げます。

お預けの金額から、この基金の運用金(利子)から奨学金として給付されます。



# 日本・中国 陶磁器展



救世箱根美術館



神奈川県箱根町強羅1300  
ケーブルカー公園上駅下車駅前  
開館 午前9時～午後4時

電話 0460②2623  
休館日 每週木曜日  
12月24日～31日  
1月4日～6日

# 一枚の絵が、 心を豊かにしてくれた。

くらしを豊かに——東洋信託銀行の願いです。

東洋信託銀行は、信託業務をはじめとする  
幅広い業務を通じて、みなさまのくらしのあらゆる面で  
お役に立ちたいと願っています。  
あなたのより大きな明日のために、  
ぜひ東洋信託銀行をご利用ください。

## 東洋信託銀行

横浜支店

〒220 横浜市西区北幸1-1-8(横浜駅西口前)  
☎045(311)2421

# for ZOOM

ズームシステムカメラ新発売

カメラとズームを同時開発。いま、ズームは僕たちのものになった。



## ズームは、僕の夢だった。

ズームのためのMV1。一眼レフが、さらにメカから解放された。絞り優先自動露出。シャッタースピードのことは考えなくていい。ファインダー内に縁のランプがついたら、シャッターを押す。それだけだ。人間の眼に近づいたな。しかも、ボディーは430gの軽さ。価格の軽さも僕たちのものだ。メカを忘れて、ズーミングに集中だ。MV1のためのズーム。ズームレンズとは思えない軽さに、まず驚く。75~150ミリズームをつけたMV1の重さは、今までの標準つきカメラとはほぼ同じ。軽い。どこへでもズームで出かけたくなる。操作もかんたんなワンハンドズーム。定評のSMCレンズを採用。遠かったズームの世界が僕たちのそばに来た。僕たちの写真が変わる日が、来たのだ。

SMCペンタックスM50ミリF2付

¥49,500

ケース¥3,000 ボディー¥37,000

- SMCペンタックスMズーム 75~150ミリ F4 ¥45,000 ケース ¥2,000
- 同時開発 専用ストロボ AF 200S (ファインダー内光電完了表示) ¥14,000



PENTAX

MV1

ペンタックスクレジット このマークのお店で3~20ヶ月、ボーナス払いもOK・カタログご希望の方は、機種名をご記入のうえハガキで〒100 東京都千代田区永田町1-11-1旭光学工業株式会社宣伝部へ

**サクラカラーII**

**信頼のあける品質を**

**迅速にあとどけする**

**プロ用カラープリント  
アマチュア用カラープリント**

**株式会社 京浜現像所**  
横浜市神奈川区新子安1-22-22  
TEL 045(431)7221

**サクラカラーII**

素敵なあした 力いっぱいお手伝い



素敵なくらしをお手伝いするフロア

(横浜タカシマヤ)

## ベターライフセンター6階

### ●ご進物相談所

ご結婚・ご新築・慶弔のお品物が  
ここ一ヵ所でお選びいただけます

### ●友の会サロン

毎日の生活をより楽しく豊かにする  
女性の集い  
横浜タカシマヤ友の会《ローズサークル》  
新会員募集中

### ●ブライダルサロン

ご結納のしきたりから 思い出に残る  
式場のご紹介 貸衣裳や引出物の  
ご用命も承ります

### ●ミーティングサロン

謝恩会・クラス会・記念パーティーまで  
一流の味でお手伝いいたします。  
■20名様から100名様までの〈薔薇の間〉

夜8時30分まで夜間営業

### ●旅行サロン 国内旅行から 海外旅行まで

### ●商品券・チケットショップ

音楽会・映画・演劇の前売券  
商品券・お好みギフトカード・ギフト券  
クレジットカードのお申込みは

### ●クレジットコーナー



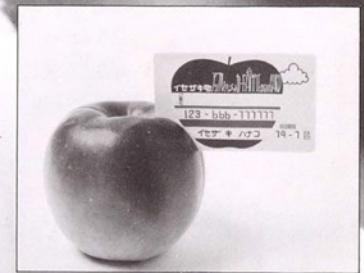
ヨコハマ駅西口

横浜高島屋

電話/横浜045(311)1251

# あざやかに旅する気持——ショビニック

私たちのまち  
いま、いろいろなバリエーションから  
新しい生活の形をイメージした空間  
ひとつの提案から……  
みずみずしく生まれ変わった四つのステージ  
あのフレッシュなリンゴの香り  
イセザキ・モール  
訪れてみませんか!?



アップルシティはキャッシュレス!  
アップルクレジットカードで  
ショビニックをお楽しみください。

YOKOHAMA はずむこころで—ショビニック  
**イセザキ町**  
テレホンガイド 045(261)1020

# 県下随一! 画材・製図・デザイン用品の専門店



## ユーリンファボリ

ヨコハマ馬車道 ☎(045)662-1231  
地下鉄関内駅馬車道口下車1分・国鉄関内駅北口下車3分

### 《4階アーティストルーム》

●洋画材料 ●日本画材料 ●書道用品 ●和紙

### 《5階デザインルーム》

●デザイン用品 ●各種紙類 ●製図用品  
●イラストボード ●インレタコーナー

★速くて、きれいな印刷 (ファボリ・コピントショップ)

## 有隣堂

### 《藤沢店アーティストコーナー》

藤沢駅南口名店ビル6階 ☎(0466)26-1411

### 《厚木店アーティストコーナー》

小田急線本厚木駅前厚木店6階 ☎(0462)23-4111

●画材 ●書道用品 ●製図用品 ●デザイン用品  
●各種紙類

グループ展に…個展に…

作品発表の場としてご利用下さい。

## ユーリンファボリ・7階ギャラリー

●ギャラリーについてのお申込み・お問合せは  
有隣堂営業企画課ギャラリー係へどうぞ。  
TEL.(045)261-1231(代表)

あなたのイメージを定着させる  
フジカラープリントは  
すぐれた設備と確かな品質管理から生まれます。



**神奈川フジカラー**  
横浜市旭区川島町2888  
☎045(381)7111代

小田原営業所	0465(47)8111代
" 事業所	
町田営業所	0427(27)0111代
鎌倉営業所	0467(31)8111代
川崎営業所	044(522)7133代

# おんなのコート ニナ・リッチ

79 冬のファッション  
よみがえる私



NINA RICCI

◆本館3階リナ・リッチコーナー

パリのニナ・リッチ  
この冬はより女らしさを求めて  
なつかしき時代のモードを  
新しい感覚で表現しました  
シックにエレガンスに  
女の魅力が漂うニナ・リッチです

家族で楽しいショッピング



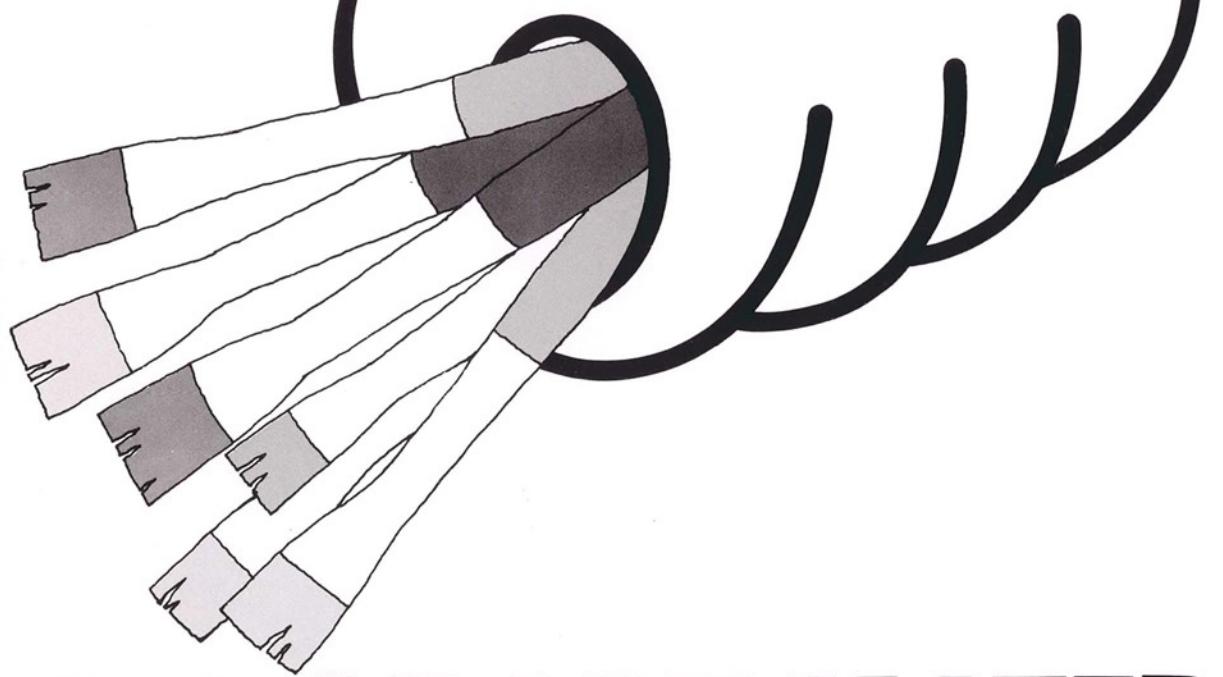
横浜松坂屋

イセザキ町

**UCHUDO**

●洋画材料●デザイン用品●額縁

あなたの創作欲を満たす品ぞろえが自慢です。



# ALL OF ART MATERIAL

**宇宙堂**

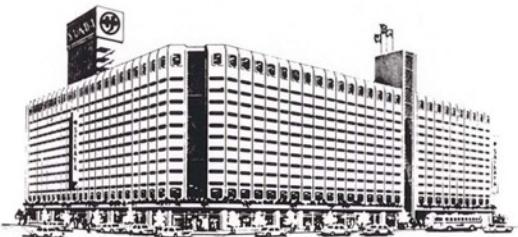
横浜店 横浜ステーションビル4F・6F TEL.045-311-1281(代) 内線587(4F) 522(6F)  
鶴見店 鶴見駅ビル3F・5F TEL.045-521-4520(3F)・045-521-3637(5F)

蒲田、仙台、千葉、津田沼、船橋、松戸、他全12店舗

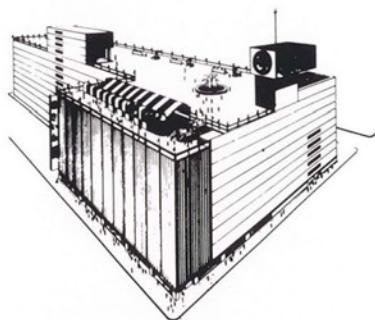
よい品にまごころそえて  
ベターライフの  
お手伝い。



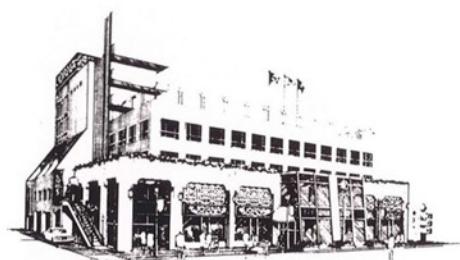
さいか屋  
川崎・横須賀  
町田ジョルナ



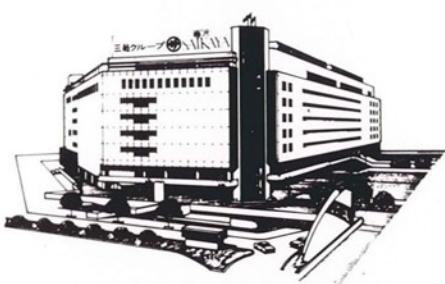
●川崎店/☎ 044・211・3111  
〒210 川崎市川崎区小川町 1



●横須賀店/☎ 0468・23・1234  
〒238 横須賀市大滝町 1~10



●町田ジョルナ/☎ 0427・23・2531  
〒194 町田市原町田 6-6-14



世界のファッショント文化のプラザ

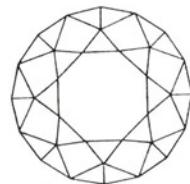


三越グループ  
藤沢  
さいか屋

☎(代表)0466(27)1111・水曜定休  
〒251 藤沢市藤沢 5-5-5番地



さわやか ショッピング



横浜駅西口  
**マイヤモンド**  
地下街

TEL (311)1221  
180の有名専門店  
380台収容の地下大駐車場

# 豊かな明日をつくる相鉄

相鉄は、交通・流通・開発・建設・観光など多くの事業を通して、はばひろく皆さまの暮らしの役に立ちたいと願っています。



**相模鉄道**

横浜市西区北幸一丁目3番23号

〒220 ☎045-319-2111(代)

発 行 神奈川県美術展委員会  
事務局：神奈川県県民部文化室  
表紙デザイン 勝呂 忠  
製作・印 刷 朝日オフセット印刷株式会社

